

令和6年度 市民ワークショップ

～市民参加ってなに？
市民の意見を市政に反映させるために～

報告書

令和7年3月

札幌市市民文化局市民自治推進室

目次

第1章 開催概要	1
1. 開催目的.....	1
2. 事業概要.....	1
(1)ワークショップテーマ.....	1
(2)参加者選出.....	1
(3)開催日時等.....	1
(4)運営方法.....	1
第2章 ワークショップの実施方法	2
1. 当日のタイムスケジュール.....	2
2. ワークショップにあたって.....	3
3. ワークショップの概要.....	4
(1)グループの編成.....	4
(2)ワークショップの流れ.....	4
第3章 ワークショップの結果	6
1. ワークショップのテーマと出された主な意見.....	6
2. グループごとの意見の概要.....	10
(1)Aグループの意見の概要.....	10
(2)Bグループの意見の概要.....	12
(3)Cグループの意見の概要.....	14
(4)Dグループの意見の概要.....	16
(5)Eグループの意見の概要.....	18
(6)Fグループの意見の概要.....	20
(7)Gグループの意見の概要.....	22

第4章 参加者アンケート	24
1. アンケート実施概要.....	24
2. アンケートの質問項目と結果.....	24
(1) 事前アンケート.....	24
(2) 事後アンケート.....	30
3. ワークショップ前後の参加者の意識の変化.....	40
4. 参加者アンケート結果のまとめ.....	43
(1) ワークショップ全体について.....	43
(2) 情報提供について.....	43
(3) ワークショップについて.....	43
(4) 市民意見の市政への反映について.....	43
第5章 ワークショップのまとめ	44
1. 「札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう！」について	44
2. 「サイレント・マジョリティが市政に参加するためには？」について	44
3. 今後について.....	45
第6章 資料編	46
1. 情報提供資料.....	46
2. アンケート票.....	52

第1章 開催概要

1. 開催目的

札幌市では、市民が主役のまちづくりを進めるための基本的なルールである「札幌市自治基本条例」を定め、平成19年4月に施行した。

また、普段市政に意見を言う機会のない方も含む多くの市民の考えを把握し、市政に反映させるため、市民参加の仕組みづくりに取り組んでおり、その一環として、「成人の日行事」をテーマに、市民アンケート調査や無作為抽出で選ばれた市民が議論する市民会議を実施した。

このような市の取組について、市民に評価してもらい、新たな市民参加の仕組みづくりを検討していくための参考とするため、また、自治基本条例第31条の規定に基づき、市の施策等が条例の趣旨に沿って整備・運用されているかを評価するにあたり参考とすることを目的に、市民ワークショップを開催した。

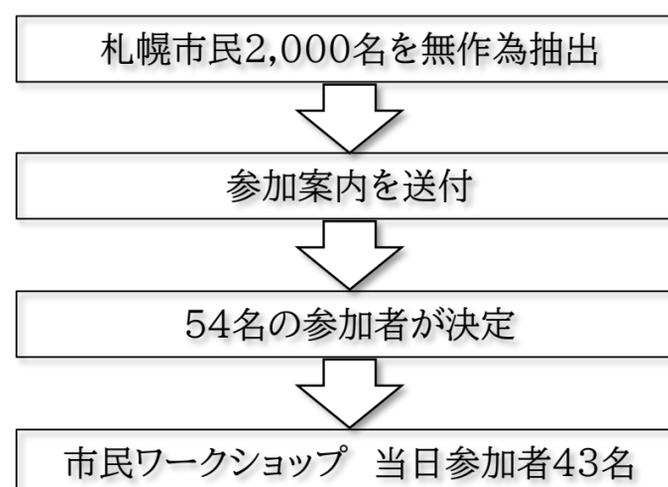
2. 事業概要

(1) ワークショップテーマ

「市民参加ってなに？市民の意見を市政に反映させるために」

(2) 参加者選出

日ごろ市政への参加機会が少ない方にも広く参加いただくことを目的として、無作為に抽出した18歳から79歳までの札幌市民2,000名に対し参加案内を送付し、参加者54名を決定した。その後、欠席連絡等があり、当日参加者は43名であった。



■参加者数内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	
男性	0	1	2	2	2	7	3	17	43
女性	0	2	2	4	4	8	6	26	

(3) 開催日時等

子育て世代や仕事をしている方もいるため、できるだけ各世代の方が参加しやすいように、土曜日の開催とした。なお、ワークショップに主体性と責任感を持って参加してもらうため参加者には後日振込で謝礼を支払った。

■開催日時

日時	令和7年3月1日(土)13:00~16:00
場所	札幌市教育文化会館 研修室305(中央区北1条西13丁目)
参加者数	43人

(4) 運営方法

札幌市が直接運営するワークショップは、「行政に意見を伝える場」となりがちであることから、第三者的な立場でファシリテーターが進行を担うことにより、中立的な議論を行って、参加者同士の議論をより深めるため、株式会社道新サービスセンターへの委託により実施した。

第2章 ワークショップの実施方法

1. 当日のタイムスケジュール

ワークショップは次の流れで進行した。

時間	内容
13:00	1. 事前アンケート(5分)
13:05	2. 開会、ごあいさつ(5分)
13:10	3. 情報提供①(20分) 「市民参加とは何か」、「札幌市の市民参加の取組」について
13:30	4. グループワークショップ①(40分) 「札幌市で進めている市民参加の取組を評価しよう！」
14:10	5. 発表(10分)
14:20	6. 休憩(10分)
14:30	7. 情報提供②(10分) サイレント・マジョリティについて
14:40	8. グループワークショップ②(40分) 「サイレント・マジョリティが市政に参加するためには？」
15:20	9. 発表(20分)
15:40	10. 振り返り(10分)
15:50	11. 本日のまとめ(5分)
15:55	12. 閉会、アンケート記入(5分)



2. ワークショップにあたって

参加者が積極的に参加できるよう、「当日の案内」を事前に郵送し、ワークショップの概要と参加にあたっての基本的なルールなどについて周知を図った。また、ワークショップのテーマにある「市民自治」、「市民参加」に関して情報提供するため、札幌市自治基本条例のポイントや条文の内容を解説する「市民が主役 札幌市のまちづくり」リーフレットを併せて送付した。

■参加についてのご案内


令和6年度 市民ワークショップ


参加についてのご案内

ご参加にあたってのご案内事項、注意事項などを記載しています。事前に必ずお読みください。ご不明な点などありましたら、お気軽にお問い合わせください。（問合せ先は最後に掲載しています。）

【ワークショップの概要】

札幌市では、平成19年に「札幌市自治基本条例」を定め、市民が主役のまちづくりを進めています。普段、札幌市に意見を言う機会のない方の考えも把握し、市政に反映していくための仕組みづくりに取り組んでおり、「成人の日行事」をテーマに、市民へのアンケート調査や無作為抽出で選ばれた市民が議論する市民会議を開催したところです。

本ワークショップでは、市が行ったこの取組について、市民の皆様のご目線で評価していただくとともに、今後より多くの市民が市政に参加しやすくなるためにはどうしたら良いか、グループに分かれてお互いの意見を尊重しながら、自由に意見を出し合い、話し合ってください。

いただいたご意見は、今後の市の取組や施策の検討にあたっての参考とさせていただきます。

■日 時

令和7年3月1日（土）13:00～16:00（12:30受付開始）

- ・ 受付には12:55までにお越しください。「参加者確認票 兼 口座振替申出書」をご提出ください。
- ・ ワークショップ会場（研修室305）の開場は12:30頃を予定しています。

■会 場

札幌市教育文化会館 3階 研修室305（中央区北1条西13丁目）

- ・ アクセス：地下鉄東西線「西11丁目」駅から徒歩5分
：市電「西15丁目」停から徒歩10分
- ・ 参加者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用いただくか、近隣の駐車場をご利用ください。
- ・ 交通費、駐車料金は参加者負担となりますので、ご了承ください。

<会場付近案内図>



■「市民が主役 札幌市のまちづくり」リーフレット



3. ワークショップの概要

ワークショップは、「市民参加ってなに？市民の意見を市政に反映させるために」をメインテーマに設定し、情報提供後に、「札幌市で進めている市民参加の取組を評価しよう！」と「サイレント・マジョリティが市政に参加するためには？」の2つのテーマについて話し合う2部構成で実施した。

(1) グループの編成

参加者の年代や性別のバランスを考慮し、7グループ(1グループ7名程度)を作り、意見交換を行った。また、意見交換を円滑に進めるため、メインファシリテーター1名とテーブルファシリテーターを各テーブルに1名ずつ計7名配置し、参加者の意見を引き出しまとめた。



(2) ワークショップの流れ

1) 進め方の説明

メインファシリテーターから、ワークショップの進め方について簡単に説明した。

2) 情報提供

参加者がワークショップの議論のテーマに関して知り、理解を深められるように、それぞれのテーマについて意見交換を行う前に、必要な情報提供を行った。 ※資料は第6章に掲載

①『市民参加とは何か』、『札幌市の市民参加の取組』について

札幌市市民文化局市民自治推進室より、市民参加とは何か、札幌市の市民参加の現状と課題、「成人の日行事(成人式)」をテーマに実践した新たな市民参加の仕組みづくりの取組等について情報提供を行った。

②「サイレント・マジョリティ」について

サイレント・マジョリティとは何か、サイレント・マジョリティの分類やサイレントマジョリティの市民参加を進めることの必要性について情報提供を行った。

3) グループワークショップ

ワークショップは、以下の2つをテーマとして実施した。参加者に付箋に意見を書いてもらい、模造紙を用いて行った。

テーマ①札幌市で進めている市民参加の取組を評価しよう！

札幌市における市民参加の現状と課題を踏まえ、現在進めている新たな市民参加の仕組みづくりの取組について評価していただくため、以下3つの問いについて考え、意見交換を行った。2)と3)は、参加者自身の評価にそれぞれシールを貼って明示し、互いの意見を伝えやすくなるようにした。

1)札幌市の取組についてどう感じたか？

2)このような取組について4段階で評価(とても良い・良い・良くない・とても良くない)

3)このような取組が増えた場合、参加意欲は高まるか(増える・変わらない・減る)

テーマ②サイレント・マジョリティが市政に参加するためには？

「サイレント・マジョリティ」が市政に参加するためにはどのようにしたらよいかを以下3つの問いについて考え、意見交換を行った。参加者自身がサイレント・マジョリティかどうかを、自分事として考えることにより、意見やアイデアが出しやすくなるように努めた。

また、1)は「除排雪」と「子育て」の異なるテーマで、自分がサイレント・マジョリティのどの分類になるかシールを貼って明示し、テーマによってサイレント・マジョリティの立ち位置が変わることを実感した。

- 1)あなたはサイレント・マジョリティ？「除排雪」「子育て」について
- 2)それぞれのサイレント・マジョリティが市政に参加しない(できない)理由は？
- 3)サイレント・マジョリティが市民参加をすすめるためには？

■グループワーク模造紙

グループ番号：グループワークショップ①

取り組みについての意見

取り組みへの評価

とても良い	良い	良くない	とても良くない

参加の意欲の変化

増えた	変わらない	減った

グループ番号：グループワークショップ②

①あなたはサイレントマジョリティ？

	除排雪	子育て
積極参加層		
潜在参加層 (負担軽減型)		
潜在参加層 (きっかけ型)		
沈黙層		

それぞれのサイレントマジョリティが市政に参加しない(できない)理由は？

それぞれのサイレントマジョリティが市民参加を進めるためには？

4)グループごとの発表

テーブルファシリテーターがグループ内の意見をまとめ、発表を行った。

5)振り返り

各グループごとに、1人1分程度、ワークショップを通じての気づきや感想などを述べてもらった。



6)まとめ

メインファシリテーターが、全グループの発表内容から意見、傾向をまとめ、確認した。

最後に「ワークショップに参加して市政への関心は高まったか」を問いかけ、「市の取組は良いと感じた」「意見を伝えるのは大事」「発見や気づきがあった」の3つに挙手をしてもらい、ワークショップで得た気づきや意識の変化を会場全体で確認する場とした。

第3章 ワークショップの結果

1. ワークショップのテーマと出された主な意見

1)テーマ1:札幌市で進めている市民参加の取組を評価しよう！

①札幌市の取組についてどう感じたか？

- ・SNSの活用、早い段階での意見収集は良い取り組みだと思う
- ・SNSを活用するという取り組み自体は評価しているが、世代間ギャップも大きいいため、紙とSNSハイブリッド型で意見収集していくべきだ
- ・企業など日々関わりのある場を通じた情報伝達だとより伝わるのでは
- ・他の自治体の取組みも参考に調査したほうが良いのでは
- ・問題をリスト化して発信すべき。市民に身近な問題であるという認識を持ってもらうことが非常に重要
- ・現状、札幌市に意見を言うにはどうすればよいのか分からない。

②このような取組について4段階で評価(とても良い・良い・良くない・とても良くない)

とても良い	良い	良くない	とても良くない
7	31.5	3.5	1

- ・新たなことにチャレンジしている点は評価できる
- ・世代間の様々な意見を交換できる機会が良いと思う。
- ・動きはいい、もっと参加できるものがあるとなおいい
- ・新しい取り組みを”行った”ということだけに満足せず、結果を出してほしい
- ・まだ取り組みが不足している。もっと多様な取り組みをすべき
- ・市民への広い周知があればなお良いのでは

③このような取組が増えた場合、参加意欲は高まるか(増える・変わらない・減る)

増える	変わらない	減る
21	22	0

- ・自分の意見がどのように生かされたのか、結果がわかるとより意欲が増す
- ・市政について知る機会が増えると参加したいと思うようになる
- ・定年退職して時間に余裕ができたので意欲的になれた
- ・これまでも意欲的だったので大きく変わらない
- ・市民の声が届くのであれば参加したい
- ・ワークショップでいろいろな方の話を聞けるなら良い
- ・自分から参加する方法がわかれば、機会がもっとあれば参加したいと思う
- ・もっと勉強したいと言う気持ちになった
- ・市政に反映されていく事を期待する
- ・参加してみて色々自分事として考えられる機会だと感じる。

2)テーマ2:サイレント・マジョリティが市政に参加するためには？

① あなたはサイレント・マジョリティ？(「除排雪」「子育て」のテーマについて)

【除排雪】

積極参加型	潜在参加層(負担軽減型)	潜在参加層(きっかけ型)	沈黙層
10	18	7	8

■理由

●積極参加型

- ・身近な課題なので積極的に意見を伝えたい
- ・自分に直接関係がある、時間に余裕がある

●潜在参加層(負担軽減型)

- ・意見はあるがどう発信していいかわからない
- ・生活に支障が出るので生活の一部として実施している
- ・スポーツや遊びと掛け合わせることで参加者が増える仕組みづくりも必要
- ・参加する方法が分かれば参加したい
- ・現状の除雪作業には満足している。除雪作業の人員及びリソースの不足を憂慮している
- ・道路に関してのみ参加、困り感がない
- ・マンション住まいなので普段は余り身近には感じていないが、歩いて移動する時に少し関心有り

●潜在参加層(きっかけ型)

- ・高齢者宅へのボランティア等はインセンティブがないと自分の時間を割いてまで動かないのでは
- ・ボランティアに行ったところでやってもらって当たり前という態度の方がいるとやる気を失くす
- ・普段除雪作業は家族がしているので余り関心が無いが、家族に負担が掛かるので良くなって欲しい
という思いは有る

●沈黙層

- ・除雪について不満がない
- ・マンション住まいなので除排雪に関しては関心無し

【子育て】

積極参加型	潜在参加層(負担軽減型)	潜在参加層(きっかけ型)	沈黙層
9	8	10.5	15.5

■理由

●積極参加層

- ・新しい世代を育てることは大切なので積極的に参加したい
- ・子どもや孫などずっと関わり続けているので楽しく前向きに参加できている
- ・子育てサロンに参加しており、そこで意見を直接伝えている
- ・子育ては市の根幹だと思うから

●潜在参加層(負担軽減型)

- ・子育てをしているので関わりは多いが日々の仕事もあり積極的とまではいかない
- ・自身が子育て中&保育士なので、負担がなければ参加したい
- ・子育て中は必要な情報以外は集めておらず行政に対して意見を上げるという考えが思い浮かばなかった。今は時間に余裕が出来たので参加している

●潜在参加層(きっかけ型)

- ・子育てに関わりがないので今は労力をかけてまで意欲的にはなれないが自身の環境の変化があれば変わるかもしれない
- ・「子育て」の定義は？義務教育までなのか、成人までなのか。子育て支援と言いながら、義務教育までが対象範囲の支援もあるため気になった。
- ・年齢的に子供との関りが無い
- ・とても気になるテーマだが自分が子育て世代では無いので意見は出しにくい。ただどう感じている人がいるのか意見を聞いてみたい
- ・子育ては終わっているがきっかけがあれば参加したい
- ・身内から不満があがったら参加したい

●沈黙層

- ・当事者意識がない
- ・自分にどんなことができるかわからない
- ・興味がない、自分には関係がない

②それぞれのサイレント・マジョリティが市政に参加しない(できない)理由は？

- ・どのように参加できるのか、情報が足りない
- ・時間の余裕がない、負担が増える
- ・意見が反映されない、反映されるか疑問
- ・沈黙層にならざるを得ない場合もある
例)介護・育児など、個人の事情で手一杯。ワークショップのような場で発表することが苦手。
- ・テーマにより当事者意識がない

③サイレント・マジョリティが市民参加をすすめるためには？

●情報の発信や共有の必要性

- ・情報があればもっと参加したいし、今日のようにする人も増えると思う
- ・参加した体験談を共有すること(SNSでの情報発信)
- ・日頃から関わりのあるコミュニティ(企業、趣味)や、定期的に訪れる場所(スーパー)など、立場や生活環境に合わせた情報発信が必要では？
- ・(きっかけ型には)アンケートやSNSなど、インセンティブ付きで行うと参加しやすい。ただ、アンケートをやっているということを周知させないといけないと思う
- ・参加するメリットを感じられるようにする。参加者の意見を集約した結果、どう変わったのかを見える形で共有してもらうのが良い。例)広報さっぽろでワークショップの結果どうなったかを報告する。
- ・<情報発信の手段として>チカホの活用
- ・楽しい地域のイベントで市民参加を促すのが良い(お祭りとか)
- ・そもそも吸い上げた意見の進路が見えないとやる気がでない
- ・個人への直接のアプローチ
- ・テーマ毎に年代別のアプローチが必要

●参加方法について

- ・町内会と協力してアンケートを取るのがよいのでは
- ・(負担軽減型には)例えば各区で説明会を開催していると行きやすい
- ・意見を募るだけでは無く行政側がもっと広く出向いて意見を集約する
- ・ZOOMアーカイブなどで、いつでも市の考えを聞けると嬉しい
- ・ワークショップも対面とリモートのどちらでも参加出来ると良い
- ・開催方法を寛容にしてほしい。例)リモート開催する／頻繁に開催する／家族など身内の参加もOKにする
- ・行動できなくてもアイデアだけの参加ができれば
- ・匿名性が確保でき手軽に参加できれば
- ・行政のホームページにコメントを入れるのは堅苦しい。SNS等で気軽に意見を述べる形が良い
- ・札幌市は大きいので、自分の意見なんか届かないと思ってしまう。例えば自分の住んでいる地域の身近な代表などが分かればうれしい。選挙のときにしか活動していないように思う。
- ・積極的になれない人にも参加してもらったり、発言したり書いたりするのが得意でない人でも意見の言いやすいような場を作る工夫が必要
- ・エンタメとして気軽に参加できるような発想転換も必要(子ども達も遊びながら社会課題を考えられる等)
- ・市長と直接話せるなら負担があっても行きたい

●報酬について

- ・ポイントがもらえると良いのでは
- ・交通費込みの報酬を用意する。例)マイナカードと連携して報酬を受け取れるようにする。SAPICAやRARAプリカなど、市民利用が多いカードへのポイント付与。

●教育の必要性

- ・子どもの頃からの教育が必要
- ・小中学校の小さい頃からの参加を増やす仕組みづくり

2. グループごとの意見の概要

グループワークショップで出された意見の概要、ワークショップの最後に各グループで行った振り返り、最後のまとめでメインファシリテーターから参加者に問いかけ、挙手してもらった結果をまとめています。

(1)Aグループの意見の概要

1)テーマ1:札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう！

①取り組みについての意見

- ・SNSの活用、早い段階での意見収集は良い取り組みだと思う
- ・キッズコメントも10代の意見を聞ける機会が良い
- ・SNSアンケートは手軽がゆえに、あまり考えていない意見も多くなるのでは
- ・他の自治体の取組みも参考に調査したほうが良いのでは
- ・自治基本条例ができる前はどうかっただのか知りたい

②取り組みへの評価

とても良い	良い	良くない	とても良くない
1	5	0	0

- ・市政に参加できる機会を増やしている
- ・市民への広い周知があればなお良いのでは

③参加意欲の変化

増える	変わらない	減る
6	0	0

- ・自分の意見がどのように生かされたのか、結果がわかるより意欲が増す
- ・市政について知る機会が増えると参加したいと思うようになる

2)テーマ2:サイレント・マジョリティが市政に参加するためには？

①Youはサイレントマジョリティ？

	除雪	子育て
積極参加型	4	3
負担軽減型	1	0
きっかけ型	1	2
沈黙層	0	1

●除雪

【積極参加層】

- ・身近な課題なので積極的に意見を伝えたい

【負担軽減型】

- ・意見はあるがどう発信していいかわからない

●子育て

【積極参加層】

- ・新しい世代を育てることは大切なので積極的に参加したい

【沈黙層】

- ・当事者意識がない

②市政に参加しない(できない)理由

- ・どのように参加できるのか、情報が足りない
- ・参加しても意味がないと思ってしまう(意見が反映されたのか実感がない)

③市民参加を進めるためには？

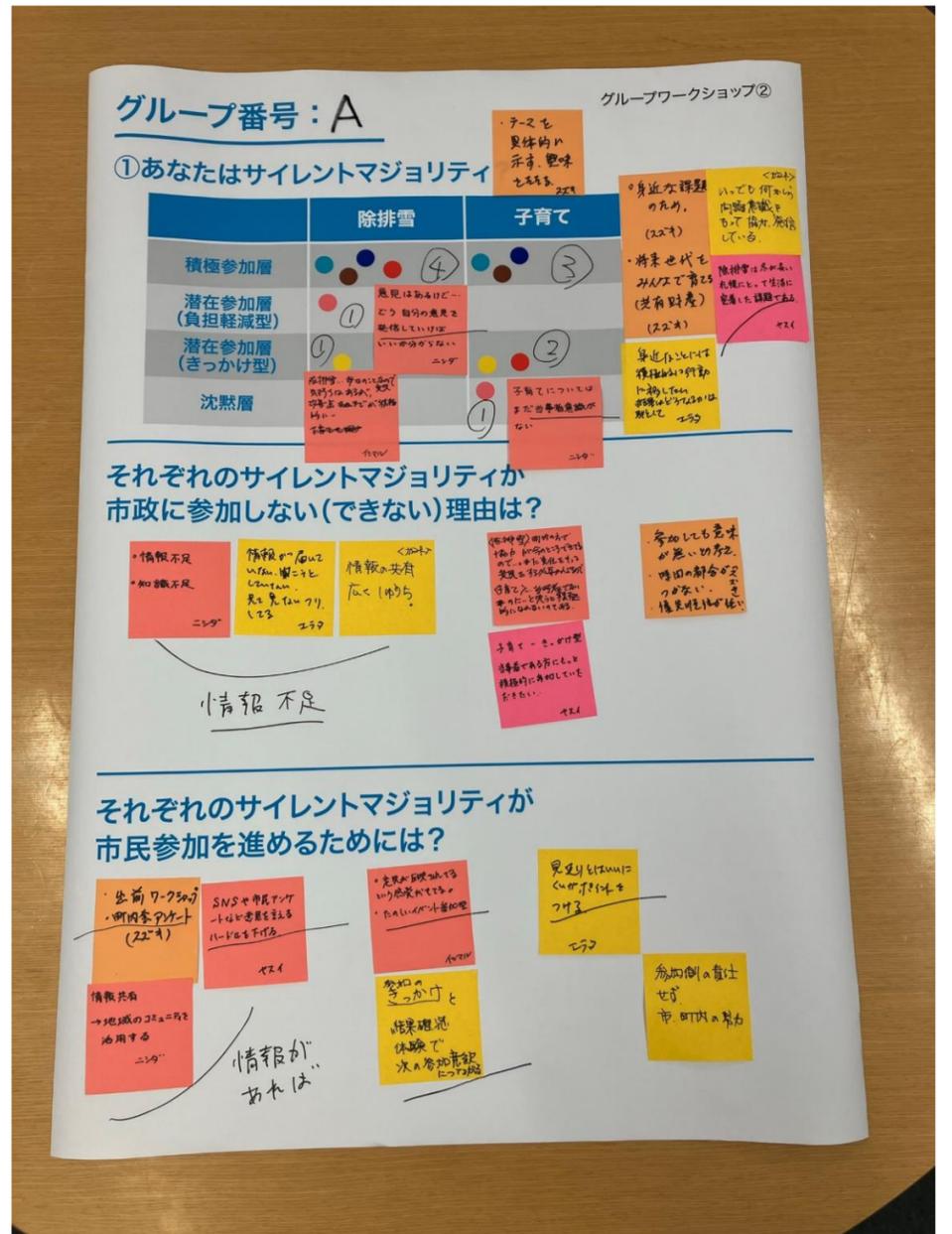
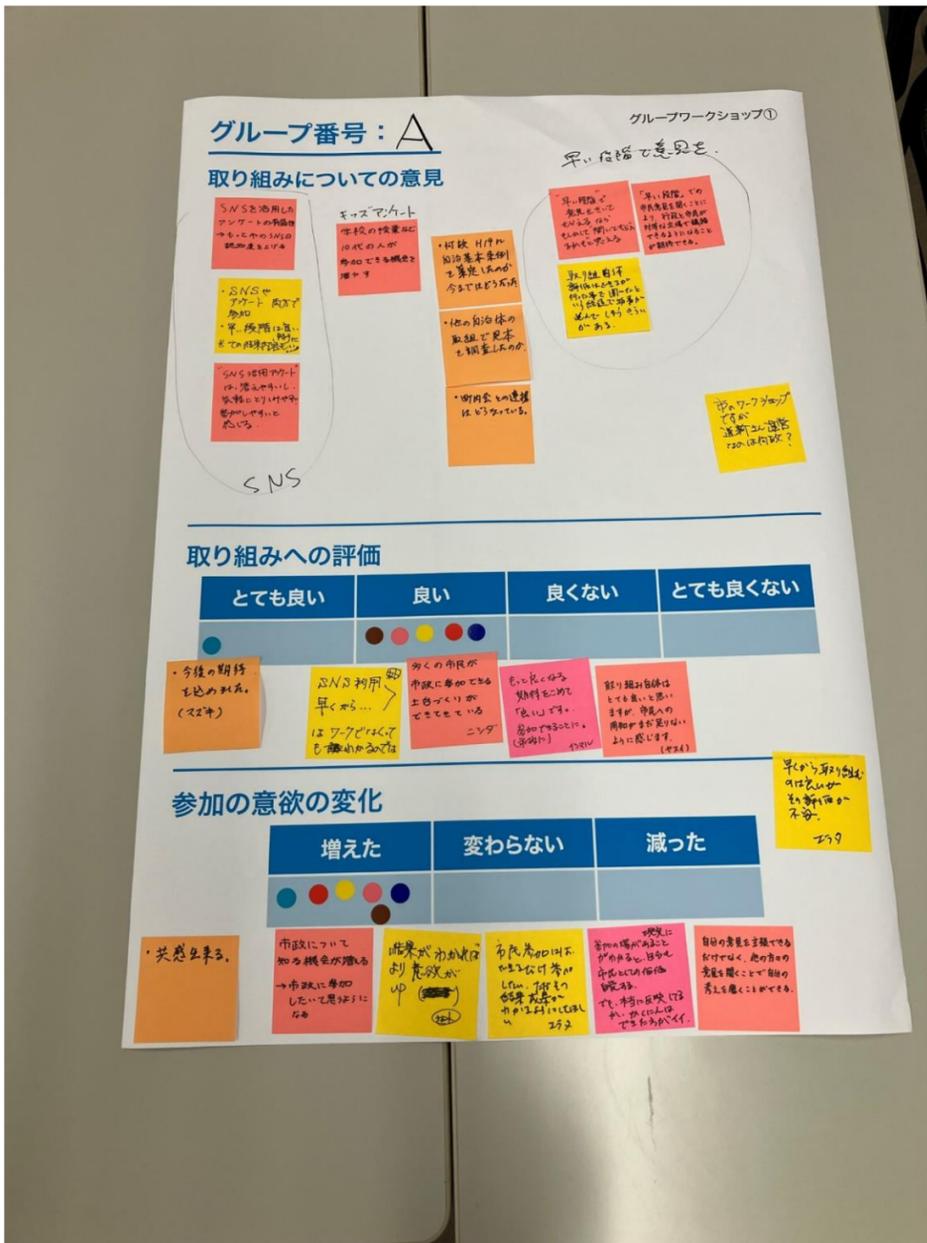
- ・情報があればもっと参加したいし、今日のようにする人も増えると思う(3名)
- ・町内会と協力してアンケートを取るのがよいのでは(積極的な人多いため)
- ・楽しい地域のイベントで市民参加を促すのが良い(お祭りとか)
- ・ポイントがもらえると良いのでは
- ・参加した体験談を共有すること(SNSでの情報発信)

■振り返りの感想

- ・いろいろな意見を聞いて自分の知識不足を痛感した
- ・出会いが大切、とても勉強になった
- ・いろいろな意見が聞けて良かった
- ・楽しかった、貴重な意見が聞けて勉強になった
- ・自分の意見を考え直すきっかけになった

■ワークショップに参加して市政への関心は高まったか

市の取組は良いと感じた	意見を伝えるのは大事	発見や気づきがあった
5	5	6



(2)Bグループの意見の概要

1)テーマ1:札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう!

①取り組みについての意見

- ・SNSなど若者の意見を聞ける場を増やすことは大事だと思った
- ・気軽に参加できる形を考えたらよいと思う、会議がにぎやかな雰囲気だと参加しやすいと思う
- ・良い取り組みなのでもっと広く周知すべき
- ・このような取り組みをされていることを知らなかったので市から発信を強めて欲しい

②取り組みへの評価

とても良い	良い	良くない	とても良くない
2	3	0	0

- ・取り組みに参加した人の意識が向上したという点が良いと思った
- ・取り組みは良いと思ったが、そのことを知らないのでは

③参加意欲の変化

増える	変わらない	減る
2	3	0

- ・いろんな自分にはない意見を聞いて興味深いと思ったから
- ・多くの人に機会が与えられるようになってほしい

2)テーマ2:サイレント・マジョリティが市政に参加するためには?

①Youはサイレントマジョリティ?

	除雪	子育て
積極参加型	1	1
負担軽減型	0	0
きっかけ型	1	0
沈黙層	3	4

●除雪

【積極参加層】

- ・身近な課題なので積極的に意見を伝えたい

【沈黙層】

- ・マンションなので困りごとではない

●子育て

【積極参加層】

- ・友人が子育てをして悩みを聞いているので代わりに意見を伝えたい

【沈黙層】

- ・自分はもう子育ても終わったため、子育てのよう重要な議題は当事者世代で考えるのが一番良い
- ・子育てのフェーズにないのでは意見を出しにくい

②市政に参加しない(できない)理由

- ・テーマによっては自分事にならず他人事に感じてしまうので
- ・意見を言っても変わらない気がする

③市民参加を進めるためには？

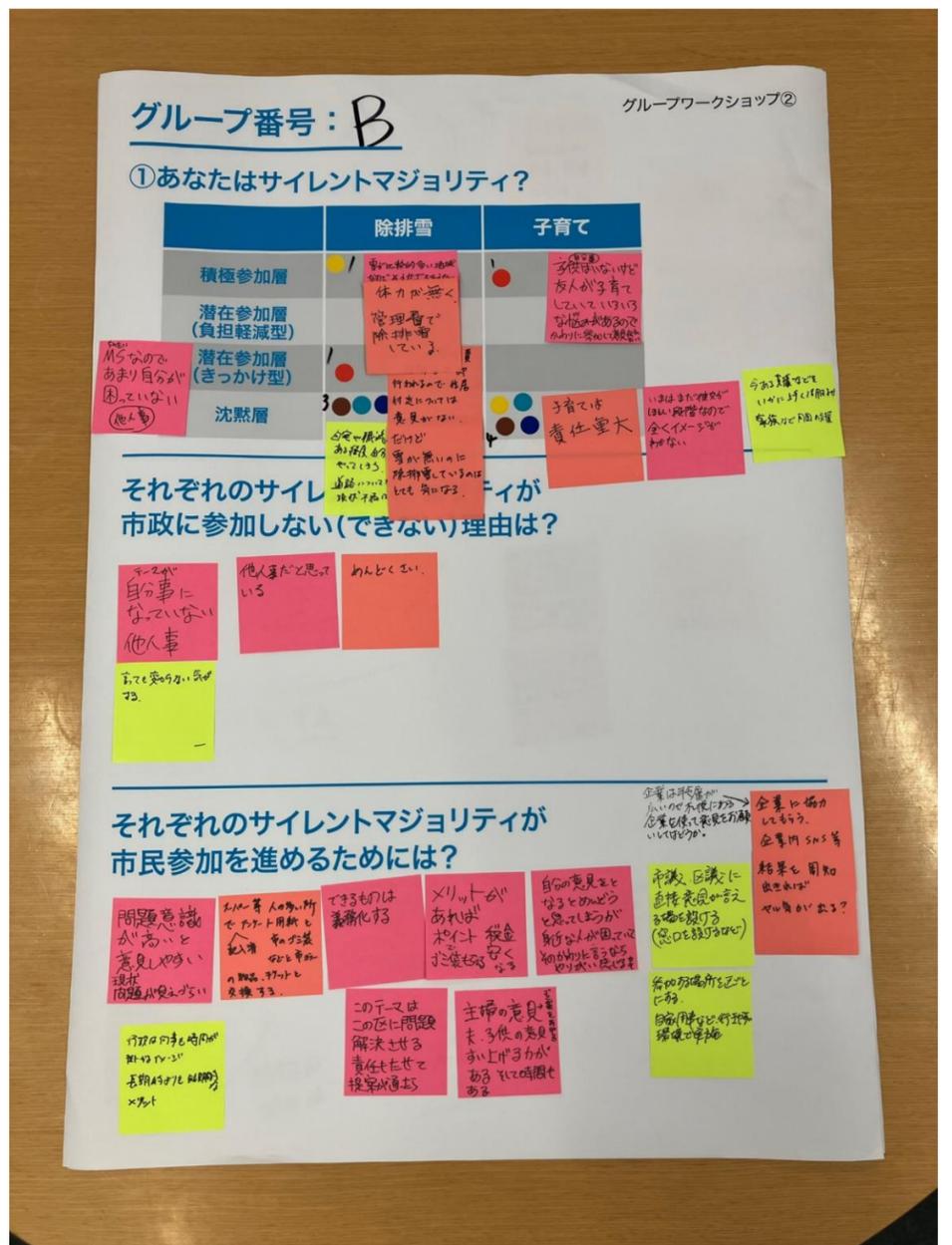
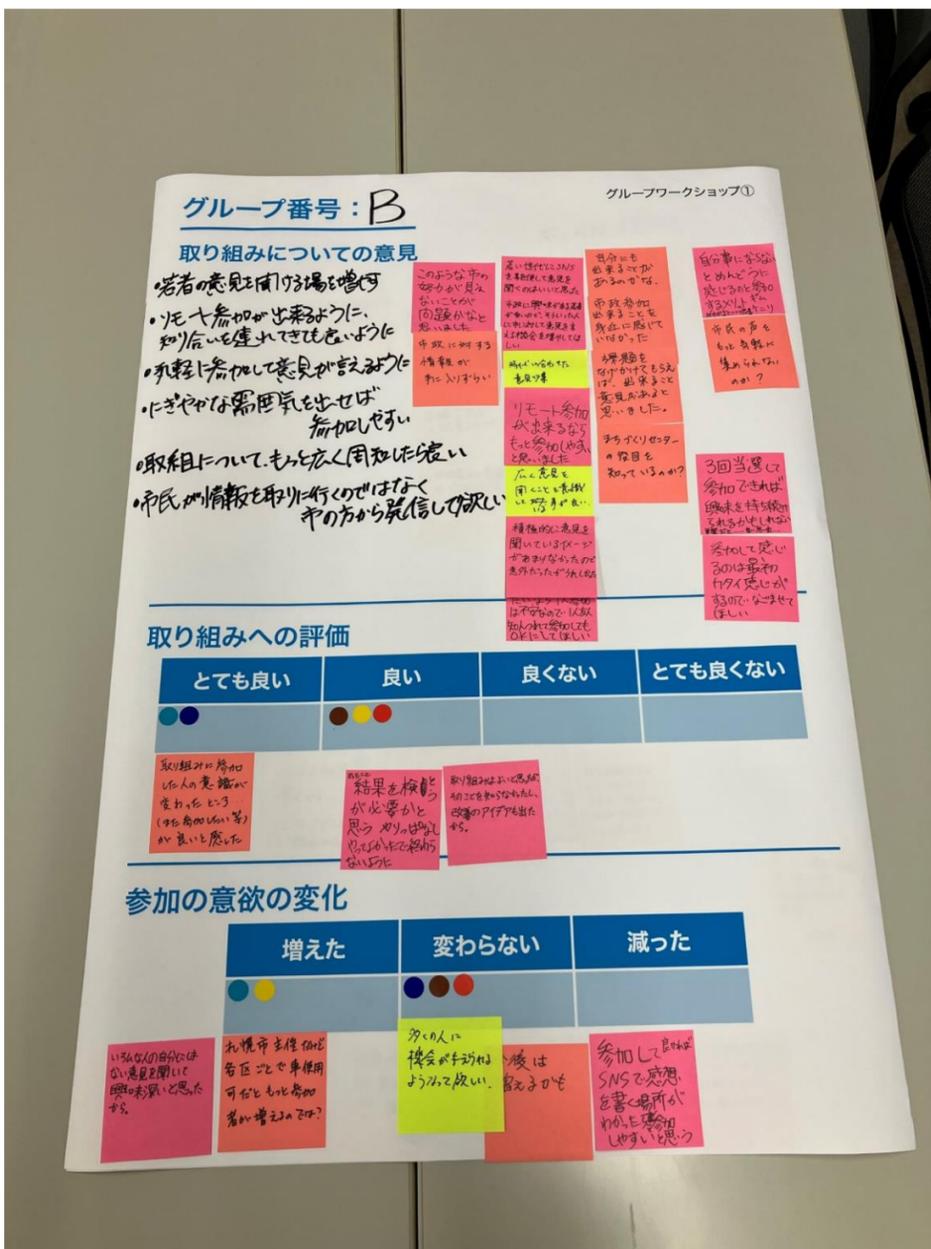
- ・企業に協力してもらい意見を集めるなどしてもらえばよいと思う
- ・自分の意見というより身近な人の意見などを代わりに伝えるなら「やりがい」を感じるのでは
- ・市議や区議に直接意見を言える場を設ける
- ・スーパーなど人が集まるところでアンケート用紙回答でゴミ袋がもらえるなどプレゼントなどをする

■振り返りの感想

- ・世代がバラバラなのに同意見が多く驚いた
- ・市政への参加意識が高まった
- ・日頃考えている自身の意見の方向性が合っているのか確認ができた
- ・今日の結果のワークショップなどがあれば参加したい

■ワークショップに参加して市政への関心は高まったか

市の取組は良いと感じた	意見を伝えるのは大事	発見や気づきがあった
4	5	5



(3)Cグループの意見の概要

1)テーマ1:札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう!

①取り組みについての意見

- ・SNSの活用、早い段階での意見収集は良い取り組みだと思う
- ・スマートフォンの利用に不安のある人、ワークショップへ足を運ぶのが難しい人など、環境や立場の違う人から平等に意見を聞く仕組みを考えてほしい
- ・SNSにしても自ら進んで情報を取りに行かなければならないため、もっと様々な場所で情報が入ってくるような仕組みを考えてほしい
- ・市全体でなく区単位で意見を集約した方がより多くの意見を集約できるのでは
- ・アンケートやワークショップなどの機会がなくても、日常的に市民が進んで意見を伝えられる場所(例えばLINE のオープンチャット等)があると良いのでは

②取り組みへの評価

とても良い	良い	良くない	とても良くない
3	3	0	0

- ・企業など日々関わりのある場を通じた情報伝達だとより伝わるのでは
- ・SNSの活用、早い段階での意見収集は良い取り組みだと思う
- ・平等に意見を聞くための仕組みづくりが必要だと思う

③参加意欲の変化

増える	変わらない	減る
2	4	0

- ・定年退職して時間に余裕ができたので意欲的になれた
- ・これまでも意欲的だったので大きく変わらない

2)テーマ2:サイレント・マジョリティが市政に参加するためには?

①Youはサイレントマジョリティ?

	除雪	子育て
積極参加型	0	1
負担軽減型	5	1
きっかけ型	1	2.5
沈黙層	0	1.5

●除雪

【負担軽減型】

- ・生活に支障が出るので生活の一部として実施している
- ・スポーツや遊びと掛け合わせることで参加が増える仕組みづくりも必要

【きっかけ型】

- ・高齢者住宅へのボランティア等はインセンティブがないと自分の時間を割いてまで動かないのでは
- ・ボランティアに行ったところでやってもらって当たり前という方がいとやる気を失くす

●子育て

【積極参加層】

- ・子どもや孫などずっと関わり続けているので楽しく前向きに参加できている

【負担軽減層】

- ・子育てをしているので関わりは多いが、日々の仕事もあり積極的とまではいかない

【きっかけ型】

- ・子育てに関わりがないので今は労力をかけてまで意欲的にはなれないが、自身の環境の変化があれば変わるかもしれない

【沈黙層】

- ・自分にどんなことができるかわからない

②市政に参加しない(できない)理由

- ・参加できる余裕がない(仕事、子育て、介護など)
- ・きっかけがない(どのように参加できるか情報が平等に届いていない)
- ・意見が反映されない(どうせ変わらないのならと自信を失ってしまう)

③市民参加を進めるためには？

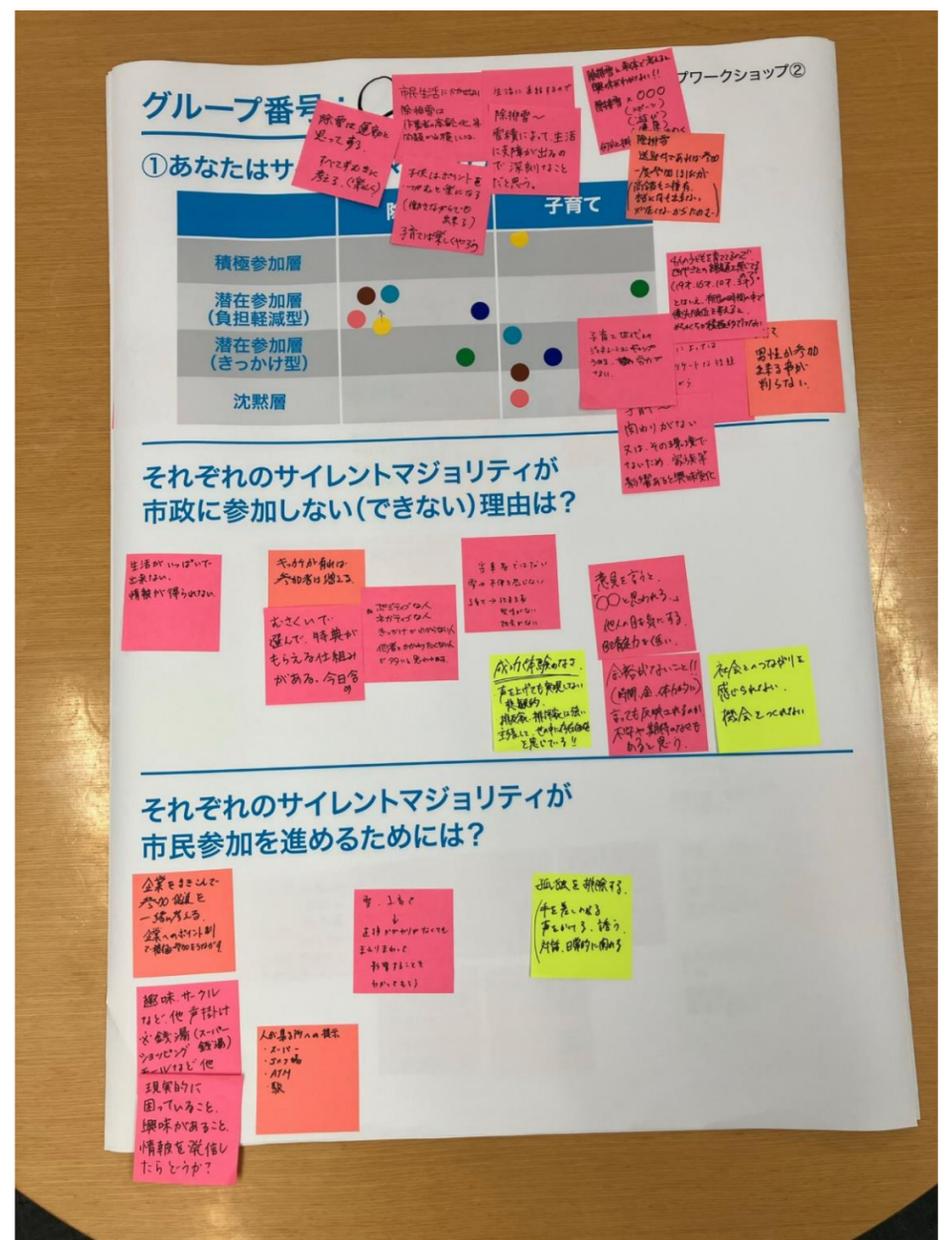
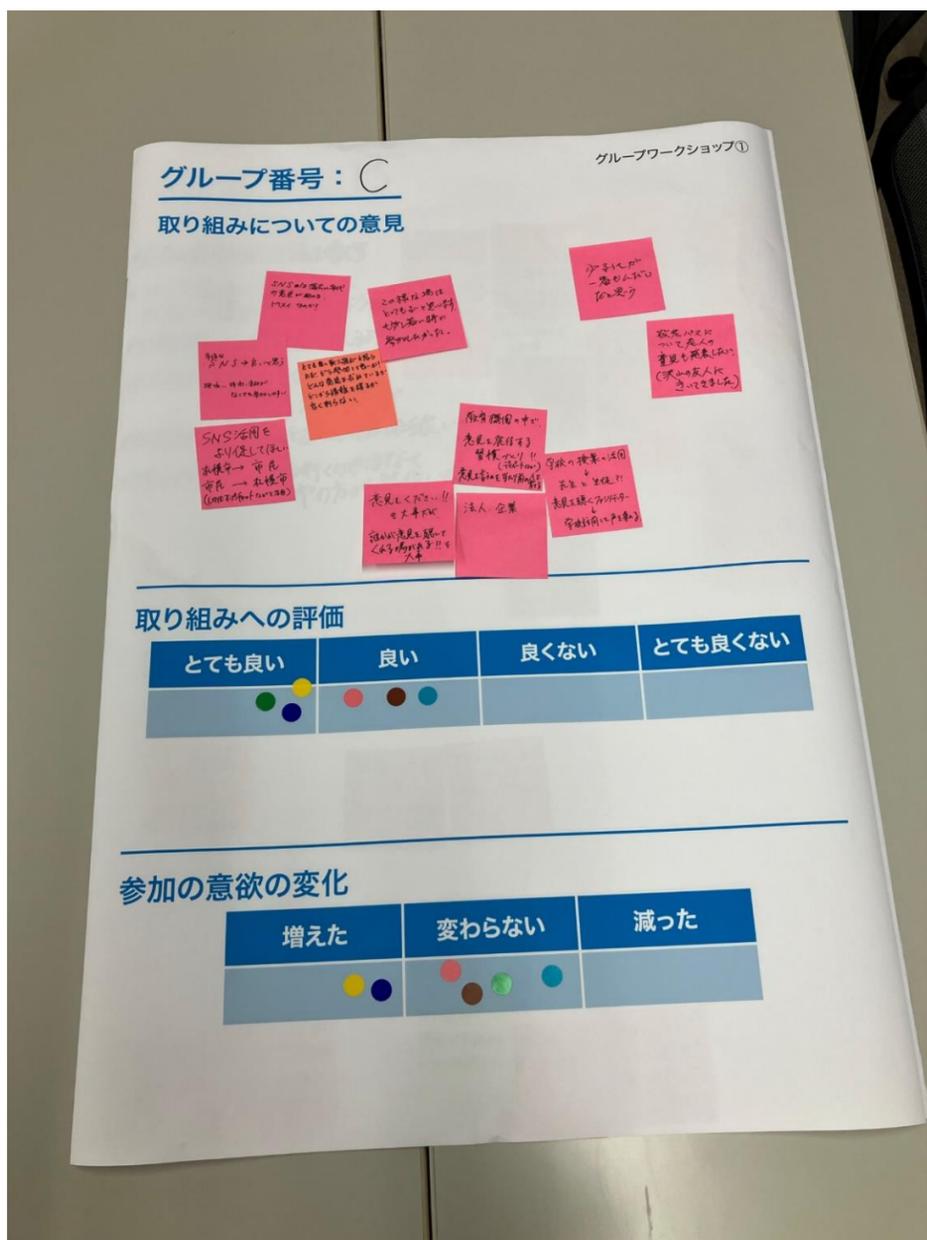
- ・日頃から関わりのあるコミュニティ(企業、趣味)や、定期的に訪れる場所(スーパー)など、立場や生活環境に合わせた情報発信が必要では？
- ・積極的になれない人にも参加してもらったり、発言したり書いたりするのが得意でない人でも意見の言いやすいような場を作る工夫が必要
- ・エンタメとして気軽に参加できるような発想転換も必要(子ども達も遊びながら社会課題を考えられる等)

■振り返りの感想

- ・立場の違う人と意見交換できて勉強になった、楽しかった
- ・家族や友人にはどうして参加するのか不思議に思われたので、どんな内容だったかを共有して、家族でも議論を深めたい
- ・小さな頃からこのような機会があると自然に身に着くと感じた

■ワークショップに参加して市政への関心は高まったか

市の取組は良いと感じた	意見を伝えるのは大事	発見や気づきがあった
4	4	2



(4)Dグループの意見の概要

1)テーマ1:札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう!

①取り組みについての意見

- ・札幌市の取り組みに対しては良いと思った(早い段階での意見収集/SNS活用/クラウドファンディング等)
- ・SNSを活用するという取り組み自体は評価しているが、世代間ギャップも大きいいため、紙とSNSハイブリッド型で意見収集していくべきだ
- ・この取り組みの前提として、市民の多くに札幌市が抱えている問題を周知させることが重要
- ・問題をリスト化して発信すべき。市民に身近な問題であるという認識を持ってもらうことが非常に重要

②取り組みへの評価

とても良い	良い	良くない	とても良くない
1	4	2	0

- ・新たなことにチャレンジしている点は評価できる
- ・動きはいい
- ・もっと参加できるものがあるとなおいい
- ・新しい取り組みを”行った”ということだけに満足せず、結果を出してほしい

③参加意欲の変化

増える	変わらない	減る
3	4	0

- ・市民の声が届くのであれば参加したい
- ・ワークショップでいろいろな方の話を聞けるなら良い
- ・自分から参加する方法がわかれば
- ・機会がもっとあれば参加したいと思う

2)テーマ2:サイレント・マジョリティが市政に参加するためには?

①Youはサイレントマジョリティ?

	除雪	子育て
積極参加型	1	0
負担軽減型	2	2
きっかけ型	0	3
沈黙層	4	2

●除雪

【負担軽減型】

- ・参加する方法が分かれば参加したい

【沈黙層】

- ・除雪について不満がない
- ・マンションだから直接関係がない
- ・参加しようがない

●子育て

【負担軽減型】

- ・自身が子育て中&保育士なので、負担がなければ参加したい

【きっかけ型】

- ・子育ては終わっているがきっかけがあれば参加したい
- ・身内から不満があがったら参加したい

【沈黙層】

- ・興味がない、自分には関係がない

②市政に参加しない(できない)理由

- ・仕事が忙しくて時間が取れない
- ・意見を言う先、声を届ける先、参加する方法がわからない
- ・声をあげてもしょうがない
- ・言ってもしょうがない(あきらめている)

③市民参加を進めるためには？

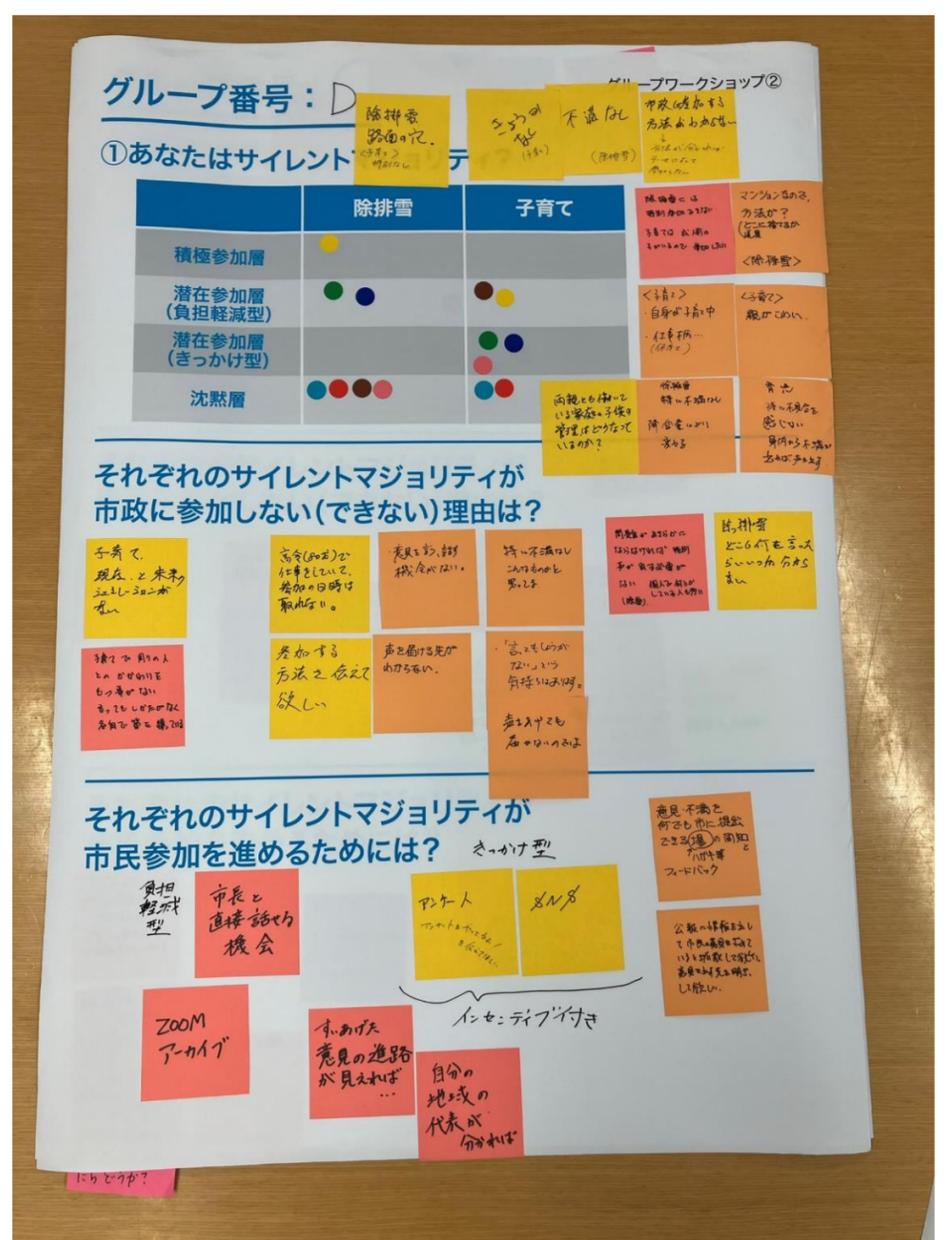
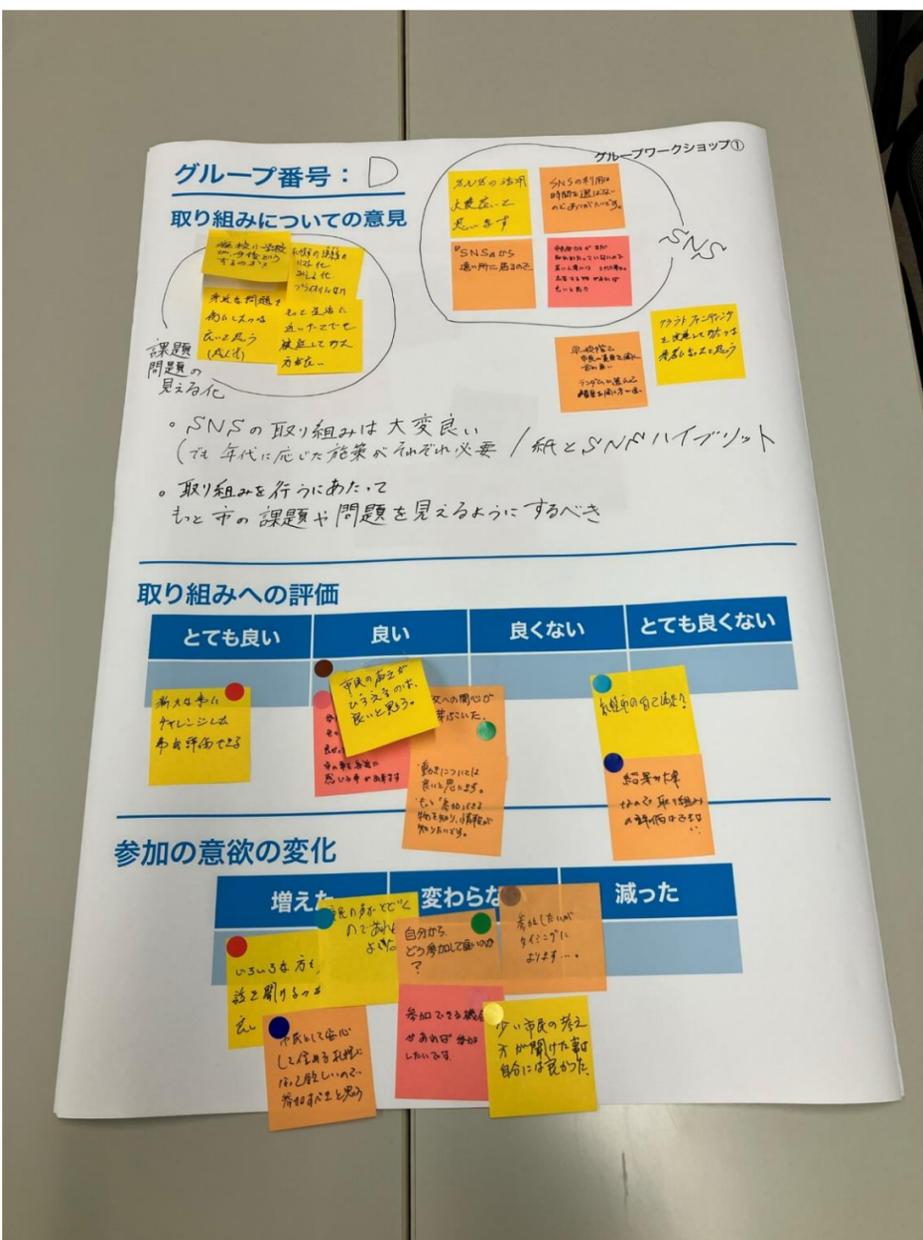
- ・(負担軽減型には)例えば各区で説明会を開催していると行きやすい/市長と直接話せるなら負担があっても行きたい/ZOOMアーカイブなどで、いつでも市の考えを聞けると嬉しい
- ・(きっかけ型には)アンケートやSNSなど、インセンティブ付きで行うと参加しやすい/ただ、アンケートをやっているということを知りさせないといけないと思う
- ・そもそも吸い上げた意見の進路が見えないとやる気がでない
- ・札幌市は大きいので、自分の意見なんか届かないとおもってしまう。例えば自分の住んでいる地域の身近な代表などが分かれば嬉しい。選挙のときにしか活動していないように思う

■振り返りの感想

- ・いろいろな意見が聞けてよかった。
- ・世代や環境の違う人達と話して、新しい発見があった
- ・若干拘束時間が長いと感じた。あと1時間減らしてほしい。

■ワークショップに参加して市政への関心は高まったか

市の取組は良いと感じた	意見を伝えるのは大事	発見や気づきがあった
2	6	2



(5)Eグループの意見の概要

1)テーマ1:札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう!

①取り組みについての意見

- ・早いタイミングで意見を聞くようになった点、SNSでのアンケートについての点はいいと思う。
- ・今回のワークショップのように、世代間交流ができる機会がいいと思う。
- ・行政が行き詰ったから市民に意見を仰ぐようになったのでは？
- ・「早い段階」とは具体的にはどのタイミング？
- ・SNSが苦手な層向けに他の施策も行ってほしい。例)スーパーやチカホなど、人が多い場所に意見箱を設置する。新聞・TV・交通広告などで意見募集している旨を告知する。
- ・テーマを決めて意見を募集するのではなく、日常的に意見を拾ってほしい。
- ・現状、札幌市に意見を言うにはどうすればよいのか分からない。

②取り組みへの評価

とても良い	良い	良くない	とても良くない
0	4.5	1.5	0

- ・世代間の様々な意見を交換できる機会がいいと思う。
- ・まだ取り組みが不足している。もっと多様な取り組みをすべき。

③参加意欲の変化

増える	変わらない	減る
2	4	0

【増えた】

- ・機会があればまた参加したい。

【変わらない】

- ・元々参加意欲が高いため、変化なし。マイナスイメージもない。

2)テーマ2:サイレント・マジョリティが市政に参加するためには？

①Youはサイレントマジョリティ？

	除雪	子育て
積極参加型	1	2
負担軽減型	4	0
きっかけ型	1	1
沈黙層	0	3

●除雪

【負担軽減型】

- ・意見はあるが、どこに言えばいいか分からない。
- ・現状の除雪作業には満足している。除雪作業の人員及びリソースの不足を憂慮している。

●子育て

【積極参加層】

- ・子育てサロンに参加しており、そこで意見を直接伝えている。

【きっかけ型】

- ・「子育て」の定義は？義務教育までなのか、成人までなのか。子育て支援と言いながら、義務教育までが対象範囲の支援もあるため気になった。

② 市政に参加しない(できない)理由

- ・沈黙層にならざるを得ない場合もある。例)介護・育児など、個人の事情で手一杯。ワークショップのような場で発表することが苦手。
- ・沈黙層にとって興味がないトピックだと、関心を持ってもらうのは難しい。

③ 市民参加を進めるためには？

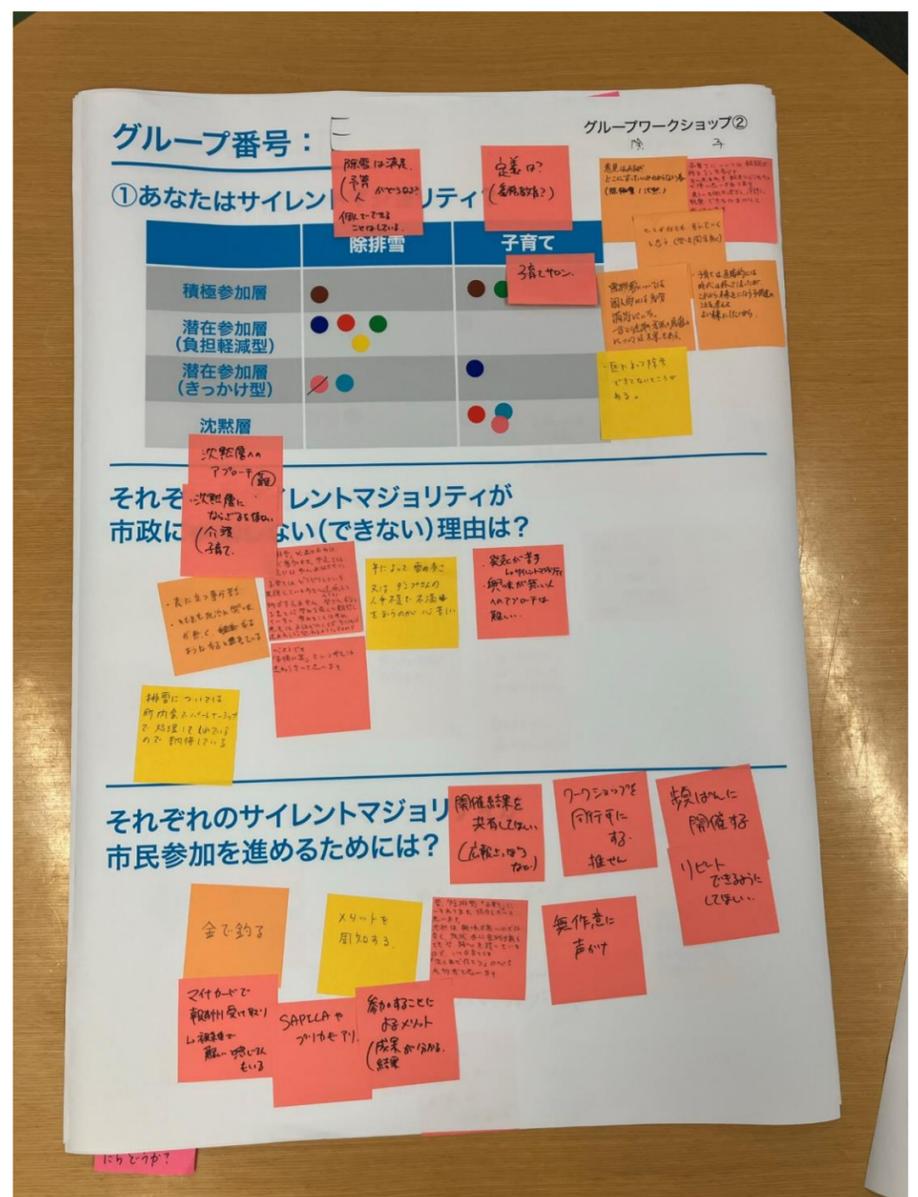
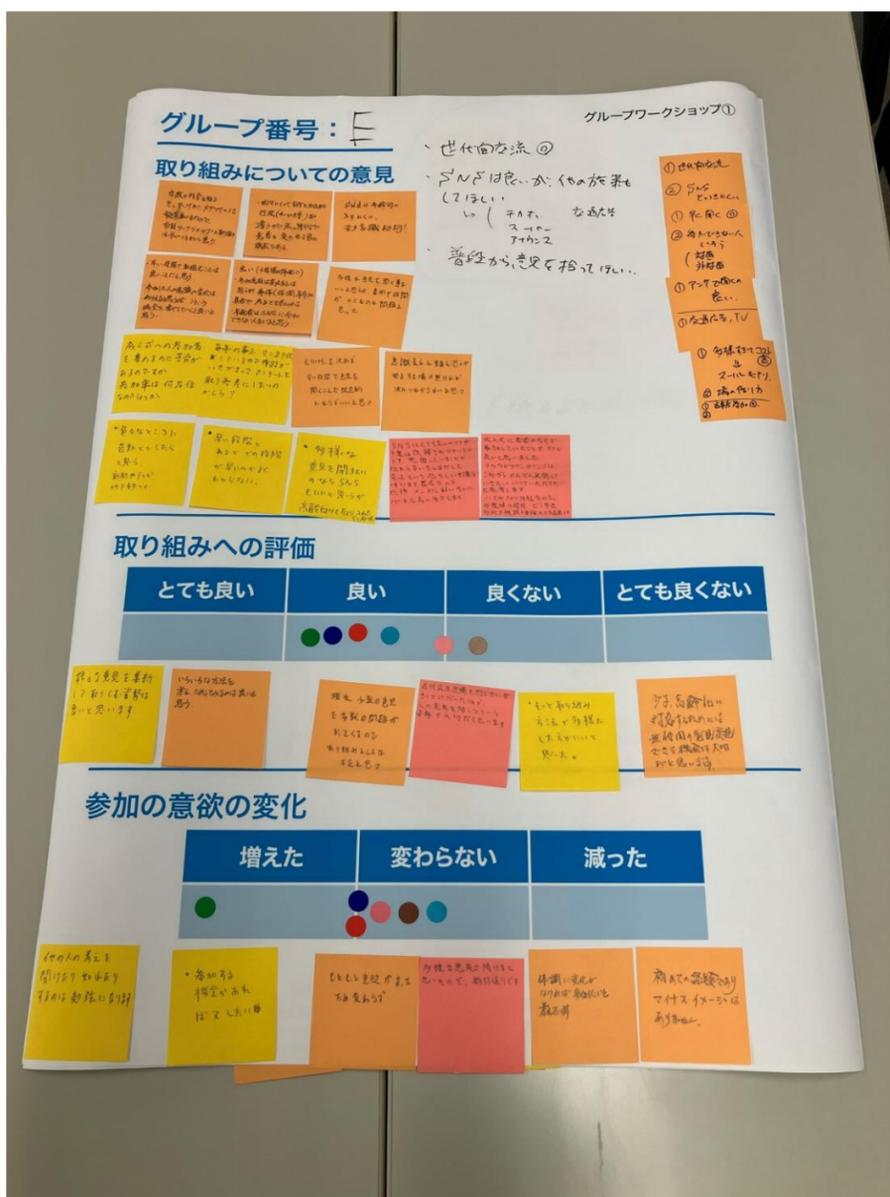
- ・参加するメリットを感じられるようにする。参加者の意見を集約した結果、どう変わったのかを見える形で共有してもらうのが良い。例)広報さっぽろでワークショップの結果どうなったかを報告する。
- ・交通費込みの報酬を用意する。例)マイナカードと連携して報酬を受け取れるようにする。SAPICAやRARAプリカなど、市民利用が多いカードへのポイント付与。
- ・開催方法を寛容にしてほしい。例)リモート開催する／頻繁に開催する／家族など身内の参加もOKにする

■ 振り返りの感想

- ・様々な世代の人と話せてよかった。
- ・札幌市の取り組みを知ることができてよかった。
- ・市政への参加方法は結局分からずじまいだった。
- ・今回の参加をきっかけに、また同様の機会があれば参加したいと思った。
- ・結果に対する方向性(意見を集約してどうするの?という点)を明示してほしい。

■ ワークショップに参加して市政への関心は高まったか

市の取組は良いと感じた	意見を伝えるのは大事	発見や気づきがあった
6	5	4



(6)Fグループの意見の概要

1)テーマ1:札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう!

①取り組みについての意見

- ・早い段階での意見収集、多様な意見を聞く取り組みは評価する
- ・意見を収集する前に、テーマについての基本情報を知りたい
- ・市民に意見を聞く事は大切だが、市役所としての考えも提示してほしい
- ・市民へのフィードバックをどの様にするのかが気になる
- ・SNSを活用していく事が重要と感じるが、情報弱者への配慮も必要
- ・各テーマの当事者の意見は聞いているのか?

②取り組みへの評価

とても良い	良い	良くない	とても良くない
0	7	0	0

- ・市民の意見を取り入れようとする姿勢は評価できる
- ・「良くない」に入れるには理由が必要だがその理由もないため
- ・市の満足で終わってほしくない

③参加意欲の変化

増える	変わらない	減る
3	4	0

- ・もっと勉強したいと言う気持ちになった
- ・市政に反映されていく事を期待する

2)テーマ2:サイレント・マジョリティが市政に参加するためには?

①Youはサイレントマジョリティ?

	除雪	子育て
積極参加型	2	2
負担軽減型	4	2
きっかけ型	1	1
沈黙層	0	2

●除雪

【積極参加型】

- ・自分に直接関係がある、時間に余裕がある

【負担軽減型】

- ・道路に関してのみ参加、困り感がない

●子育て

【積極参加型】

- ・ては市の根幹だと思っから

【負担軽減型】【きっかけ型】

- ・年齢的に子供との関りがない

【沈黙層】

- ・子どもがいないため当事者意識がない

②市政に参加しない(できない)理由

- ・【多い意見】参加するための情報が不明(4人)
- ・【多い意見】時間の余裕がない、負担が増える(4人)
- ・テーマにより当事者意識がない
- ・市政に反映されるのか疑問

③市民参加を進めるためには？

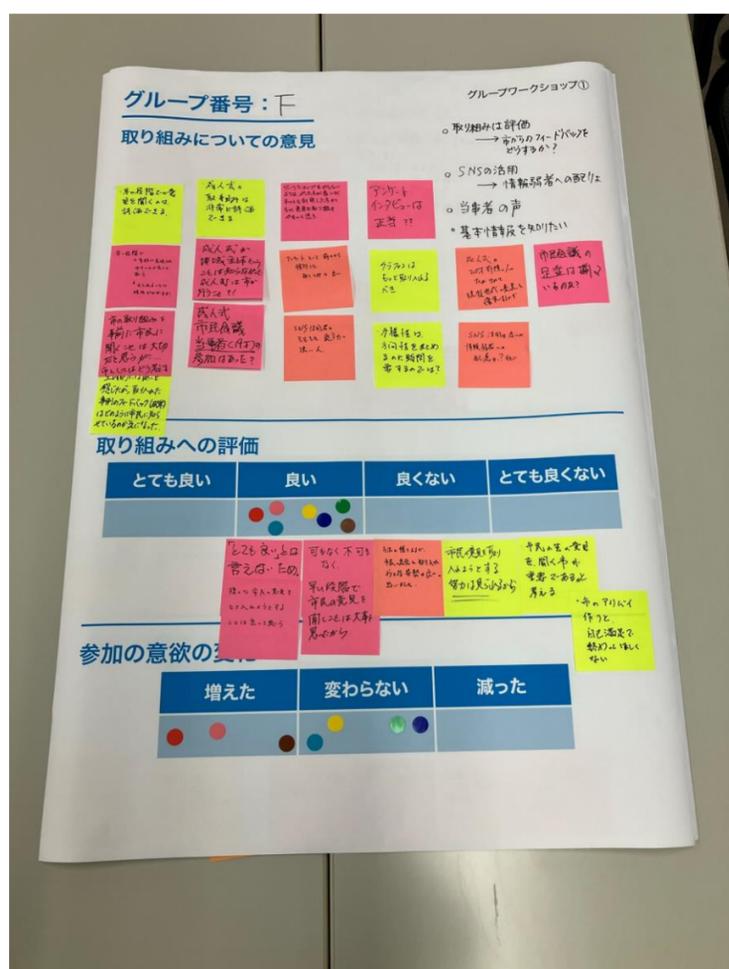
- ・情報発信、参加方法がわかればもっと参加したい(3人)
- ・<情報発信の手段として>町内会、地域との連携
- ・<情報発信の手段として>各コミュニティ(企業や保育所など)との連携
- ・<情報発信の手段として>チカホの活用
- ・行動できなくてもアイデアだけの参加ができれば
- ・個人への直接のアプローチ
- ・匿名性が確保でき手軽に参加できれば
- ・テーマ毎に年代別のアプローチが必要
- ・子どもの頃からの教育が必要

■振り返りの感想

- ・知識不足を感じた。もっと勉強して周囲に伝え、市政に反映されていくと良い
- ・札幌は良い街。市民の声が市政に反映されていく事を期待
- ・皆さんの意識が高い、自分ももっと勉強しなくてはならないと思った
- ・若い世代が来ていない事が問題
- ・この様な活動の子や孫に伝えたい
- ・市が意見を聴いてくれる事がわかった

■ワークショップに参加して市政への関心は高まったか

市の取組は良いと感じた	意見を伝えるのは大事	発見や気づきがあった
3	6	2



(7)Gグループの意見の概要

1)テーマ1:札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう!

①取り組みについての意見

- ・早い段階での意見を聞く取り組みやSNSの活用は、意見をまとめる時間に余裕が出来るので良い。若者にとっても簡単に市政に参加しやすい。
- ・札幌市の重要課題を明確にしてテーマを纏めて欲しい。テーマを絞った上で幅広く意見を聞いて欲しい。
- ・SNSを用いた収集は個人情報の徹底が出来るのか不透明。
- ・アンケートやこの様なワークショップの意見が本当に反映されているのか疑問。

②取り組みへの評価

とても良い	良い	良くない	とても良くない
0	5	0	1

- ・早い段階から広く意見を聞き取ろうという流れは良い。
- ・現状に満足して欲しくない。

③参加意欲の変化

増える	変わらない	減る
3	3	0

- ・元々参加意欲が高いので変わらない。
- ・参加してみて色々自分事として考えられる機会だと感じる。

2)テーマ2:サイレント・マジョリティが市政に参加するためには?

①Youはサイレントマジョリティ?

	除雪	子育て
積極参加型	1	0
負担軽減型	2	3
きっかけ型	2	1
沈黙層	1	2

●除排雪

【負担軽減型】

- ・マンション住まいなので普段は余り身近には感じていないが、歩いて移動する時に少し関心有り

【きっかけ型】

- ・普段除雪作業は家族がしているので余り関心が無いが、家族に負担が掛かるので良くなって欲しいという思いは有る

【沈黙型】

- ・マンション住まいなので除排雪に関しては関心無し

●子育て

【負担軽減型】

- ・子育て中は必要な情報以外は集めておらず、行政に対して意見を上げるといった考えが思い浮かばなかった。今は時間に余裕ができたので参加している

【きっかけ型】

- ・とても気になるテーマだが、自分が子育て世代では無いので意見は出しにくい。ただどう感じている人がいるのか意見を聞いてみたい

②市政に参加しない(できない)理由

- ・他にやらなければならない事が有り時間が無い
- ・自分の興味が有るテーマではないと興味が無い

③市民参加を進めるためには？

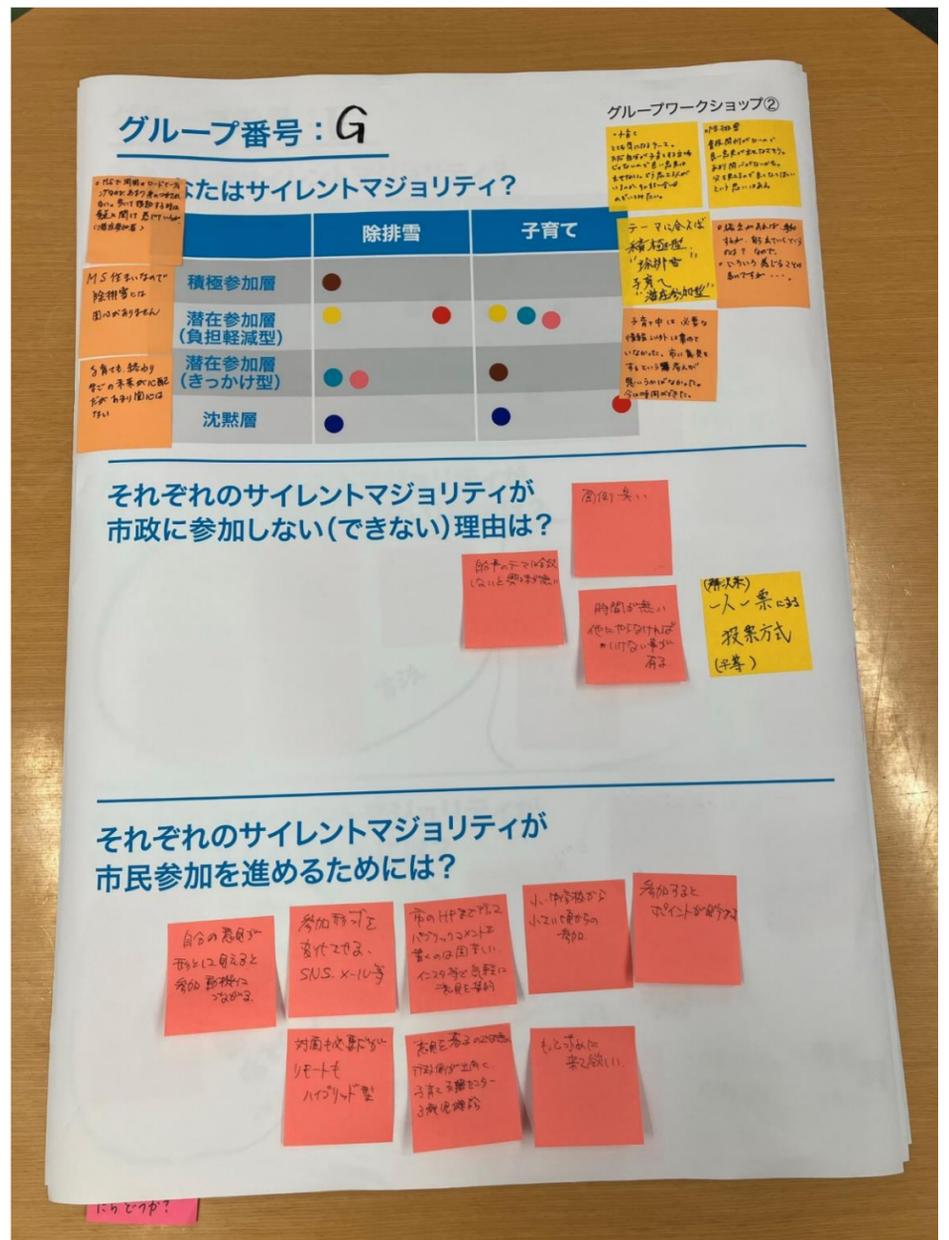
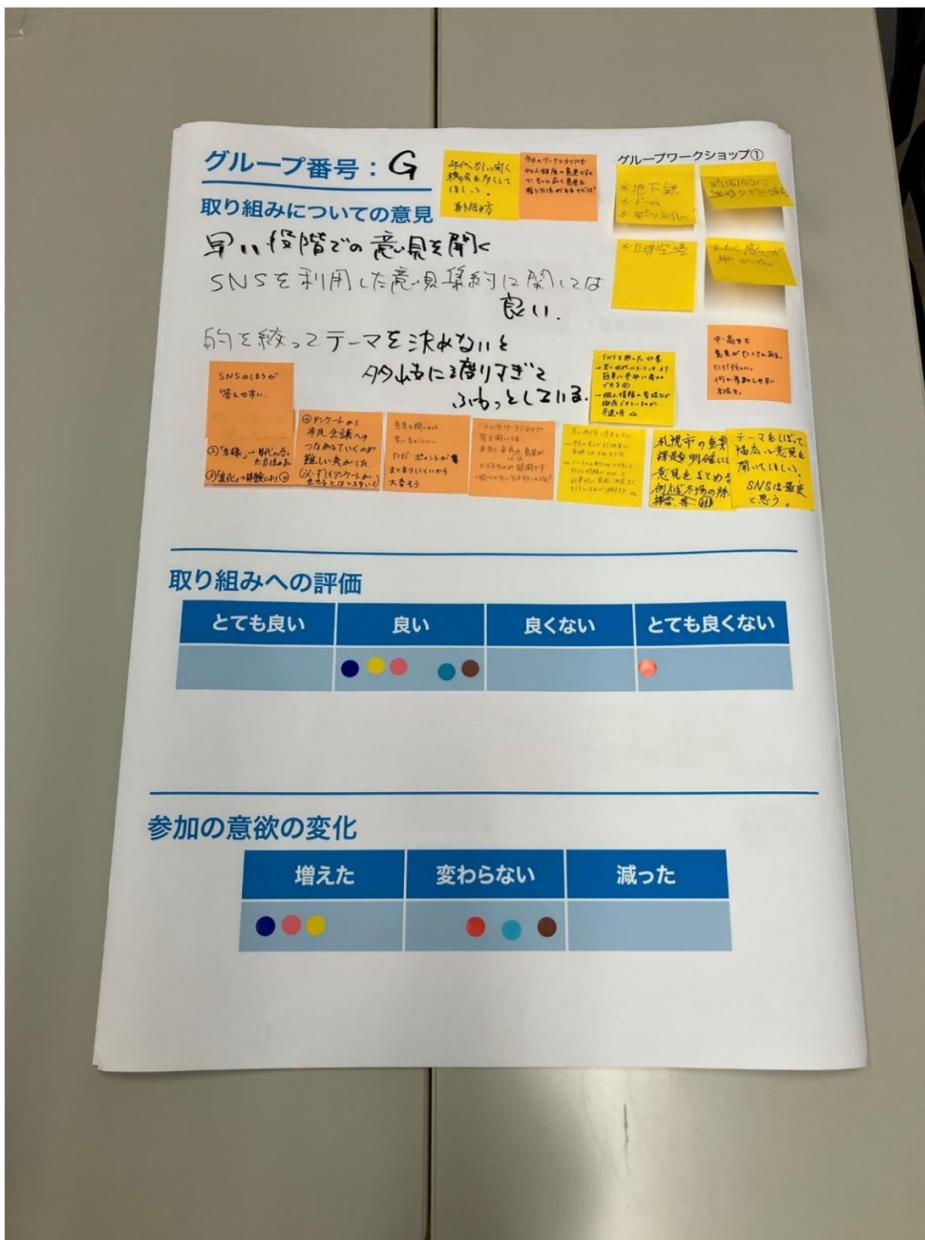
- ・自分が出した意見が見える形で反映されると参加意欲が高まると思う
- ・行政のホームページにコメントを入れるのは堅苦しい。SNS等で気軽に意見を述べる形が良い
- ・ワークショップも対面とリモートのどちらでも参加出来るが良い
- ・小中学校の小さい頃からの参加を増やす仕組みづくり
- ・意見を募るだけでは無く行政側がもっと広く出向いて意見を集約する

■振り返りの感想

- ・自分が言う事ばかりでは無く色々な他の話が聞けて良かった
- ・幅広い年齢層の意見が聞けて良い
- ・初めての参加だったが楽しかったので今後も参加したい
- ・参加出来て色々参考になった

■ワークショップに参加して市政への関心は高まったか

市の取組は良いと感じた	意見を伝えるのは大事	発見や気づきがあった
3	3	4



第4章 参加者アンケート

1. アンケート実施概要

・調査対象	：「市民ワークショップ」参加者
・配布・回収方法	：ワークショップ当日(令和7年3月1日)に配布・回収 ※ワークショップ開始前に事前アンケート、終了後に事後アンケートを実施
・回収数	：43名

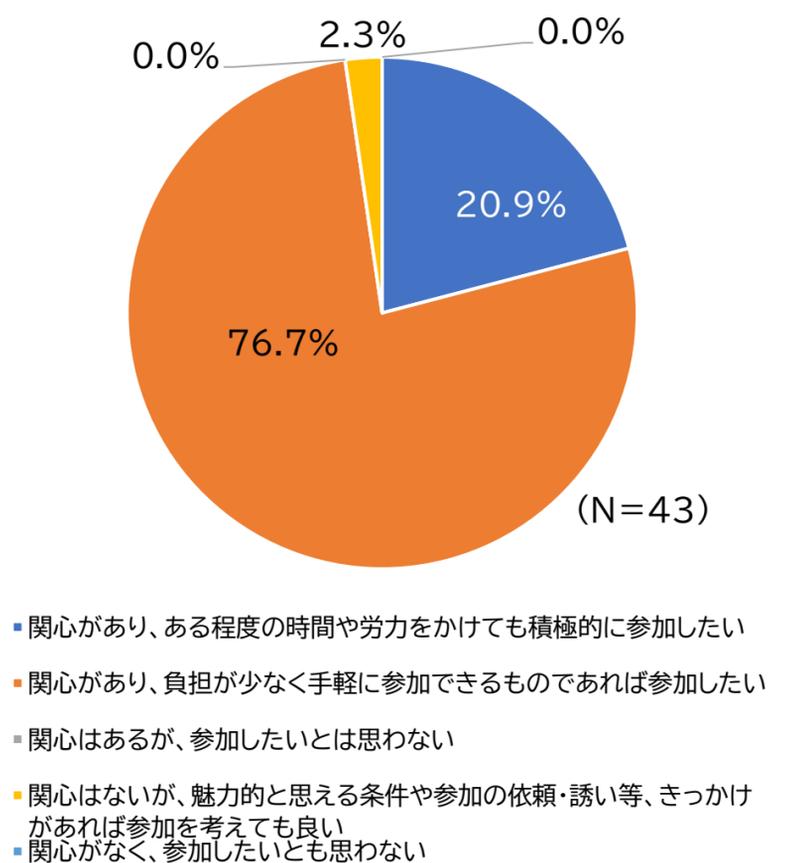
2. アンケートの質問項目と結果

(1) 事前アンケート

問1 市政への関心や参加について(一つに○)

「関心があり、負担が少なく手軽に参加出来るものがあれば参加したい」が約77%と最も多く、次いで「関心があり、ある程度の時間や労力をかけても積極的に参加したい」が約21%の結果となった。

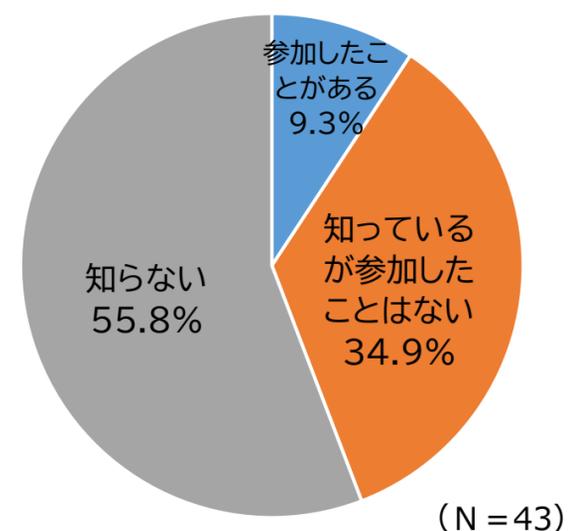
選択肢	回答数	割合
関心があり、ある程度の時間や労力をかけても積極的に参加したい	9	20.9%
関心があり、負担が少なく手軽に参加できるものであれば参加したい	33	76.7%
関心はあるが、参加したいとは思わない	0	0.0%
関心はないが、魅力的と思える条件や参加の依頼・誘い等、きっかけがあれば参加を考えても良い	1	2.3%
関心がなく、参加したいとも思わない	0	0.0%
合計	43	100.0%



問2 市政への参加について (1) あなたは、札幌市が開催する説明会・意見交換会に参加したことがありますか。(一つに○)

「知らない」が約56%と最も多く、「知っているが参加したことはない」が次いで約35%であった。

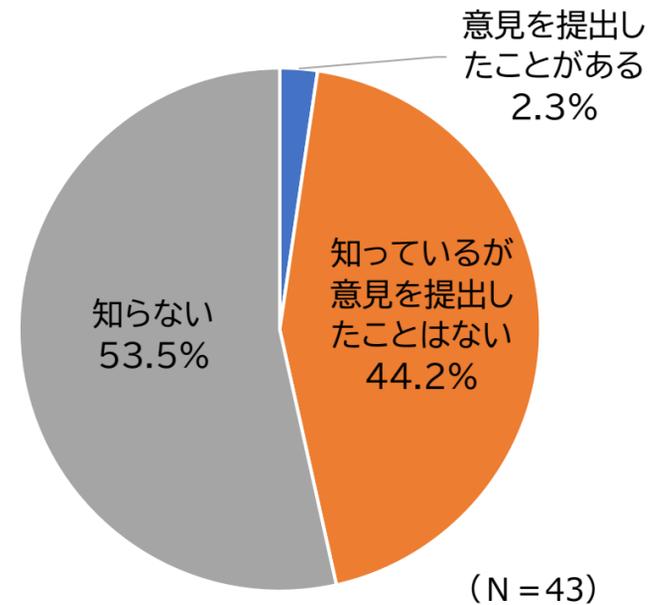
選択肢	回答数	割合
参加したことがある	4	9.3%
知っているが参加したことはない	15	34.9%
知らない	24	55.8%
合計	43	100.0%



(2) あなたは、パブリックコメントに意見を提出したことがありますか。(一つに○)

「知らない」が約54%と最も多く、「知っているが意見を提出したことはない」が次いで約44%であった。

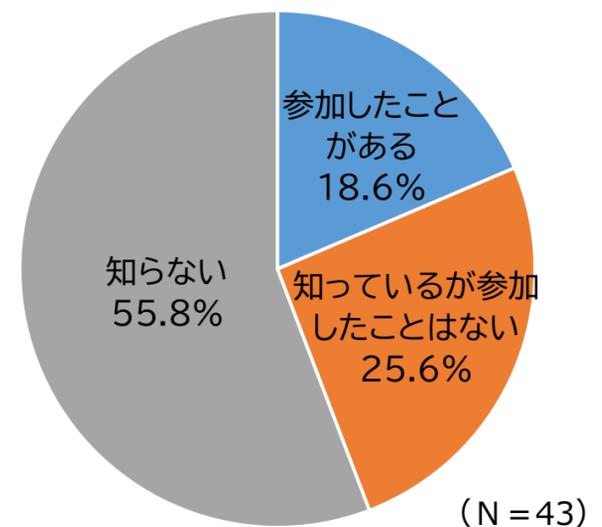
選択肢	回答数	割合
意見を提出したことがある	1	2.3%
知っているが意見を提出したことはない	19	44.2%
知らない	23	53.5%
合計	43	100.0%



(3) あなたは、シンポジウム・フォーラムに参加したことがありますか。(一つに○)

「知らない」が約56%と最も多く、「知っているが参加したことはない」が次いで約26%であった。

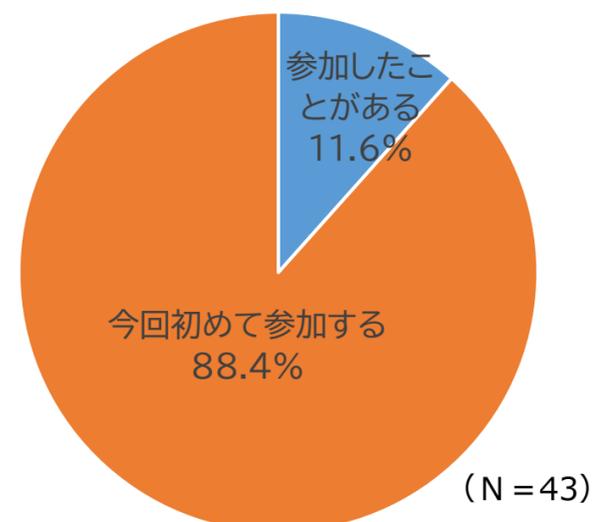
選択肢	回答数	割合
参加したことがある	8	18.6%
知っているが参加したことはない	11	25.6%
知らない	24	55.8%
合計	43	100.0%



(4) あなたは、これまでワークショップに参加したことがありますか。(一つに○)

「初めて参加する」が約9割であった。

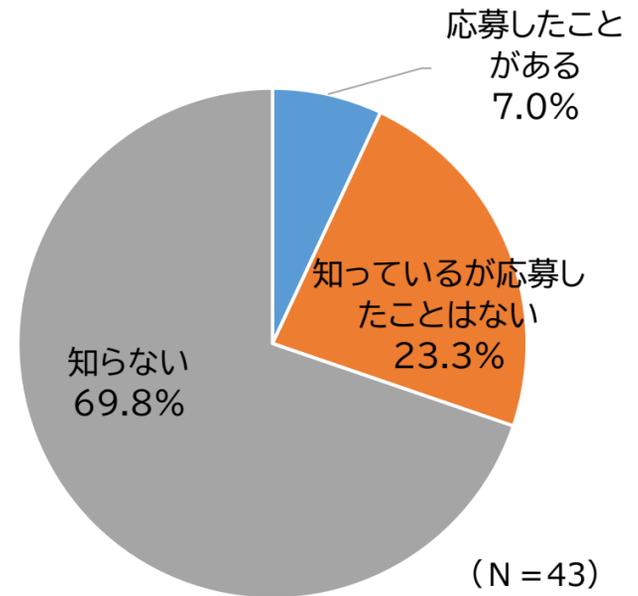
選択肢	回答数	割合
参加したことがある	5	11.6%
今回初めて参加する	38	88.4%
合計	43	100.0%



(5) あなたは、審議会などにおける市民委員の公募に応募したことがありますか。(一つに○)

「知らない」が約70%と最も多く、「知っているが応募したことはない」が次いで約23%であった。

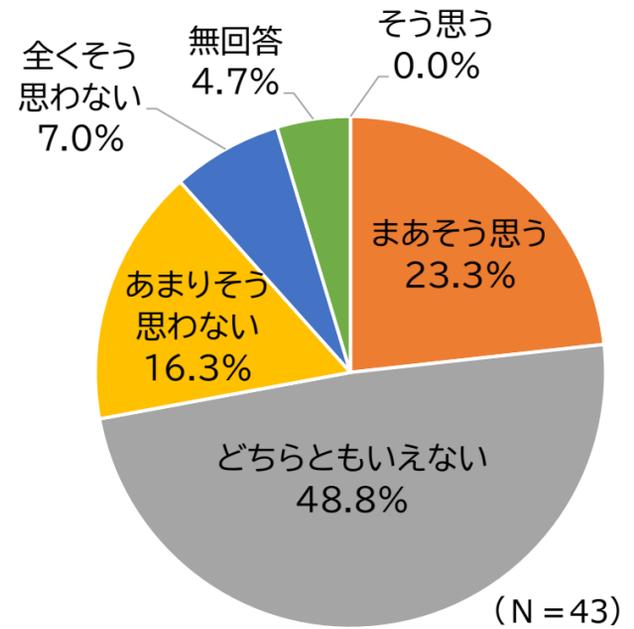
選択肢	回答数	割合
応募したことがある	3	7.0%
知っているが応募したことはない	10	23.3%
知らない	30	69.8%
合計	43	100.0%



問3 現在、札幌市は、市民全体の意見をしっかりと聞き、(良い方向で)市政に反映していると思いますか。(一つに○)

「どちらともいえない」が約49%であった。次いで、「まあそう思う」が約23%であった。

選択肢	回答数	割合
そう思う	0	0.0%
まあそう思う	10	23.3%
どちらともいえない	21	48.8%
あまりそう思わない	7	16.3%
全くそう思わない	3	7.0%
無回答	2	4.7%
合計	43	100.0%

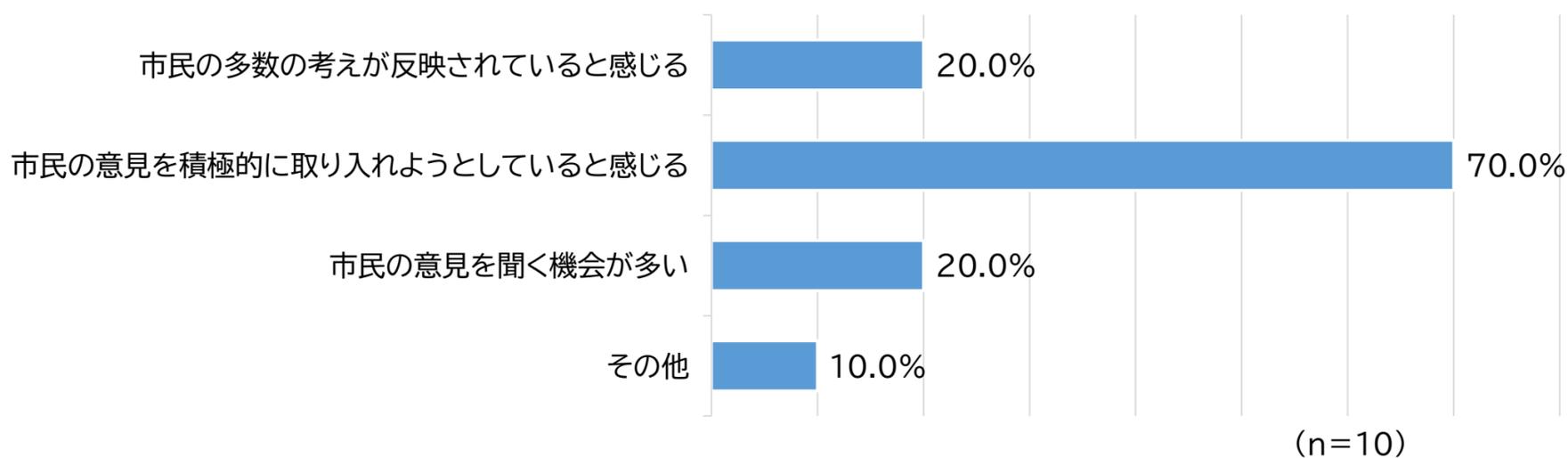


問4 問3の回答の理由は何ですか

(1) 「1.そう思う」、「2.まあそう思う」と回答(複数回答)

「市民の意見を積極的に取り入れようとしていると感じる」が7割であった。

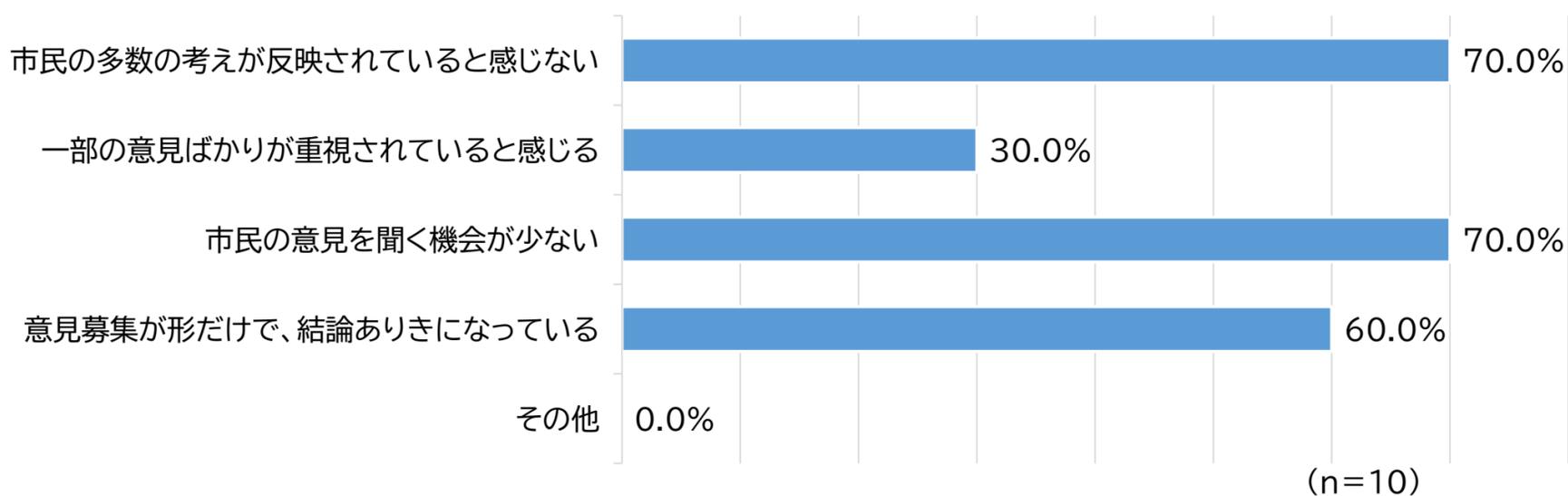
選択肢	回答数	割合
市民の多数の考えが反映されていると感じる	2	20.0%
市民の意見を積極的に取り入れようとしていると感じる	7	70.0%
市民の意見を聞く機会が多い	2	20.0%
その他	1	10.0%



(2) 「4.あまりそう思わない」、「5.全くそう思わない」と回答(複数回答)

「市民の多数の考えが反映されていない」「市民の意見を聞く機会が少ない」がそれぞれ7割であった。

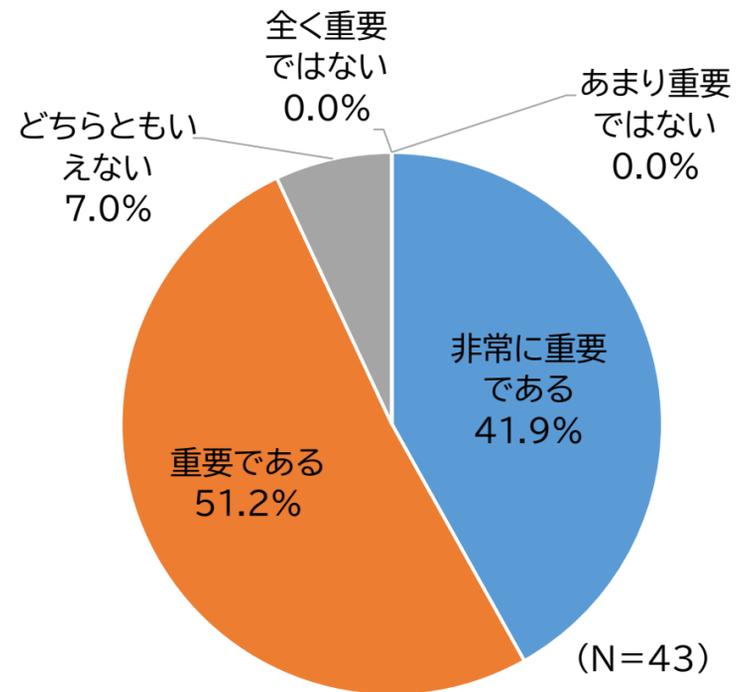
選択肢	回答数	割合
市民の多数の考えが反映されていないと感じない	7	70.0%
一部の意見ばかりが重視されていると感じる	3	30.0%
市民の意見を聞く機会が少ない	7	70.0%
意見募集が形だけで、結論ありきになっている	6	60.0%
その他	0	0.0%



問5 あなたは、普段市政に意見を言う機会がない市民の意見を、市の政策に反映することはどの程度重要だと思いますか。(一つに○)

「非常に重要である」もしくは「重要である」を回答した人を合わせると約9割強の結果となった。

選択肢	回答数	割合
非常に重要である	18	41.9%
重要である	22	51.2%
どちらともいえない	3	7.0%
あまり重要ではない	0	0.0%
全く重要ではない	0	0.0%
合計	43	100.0%

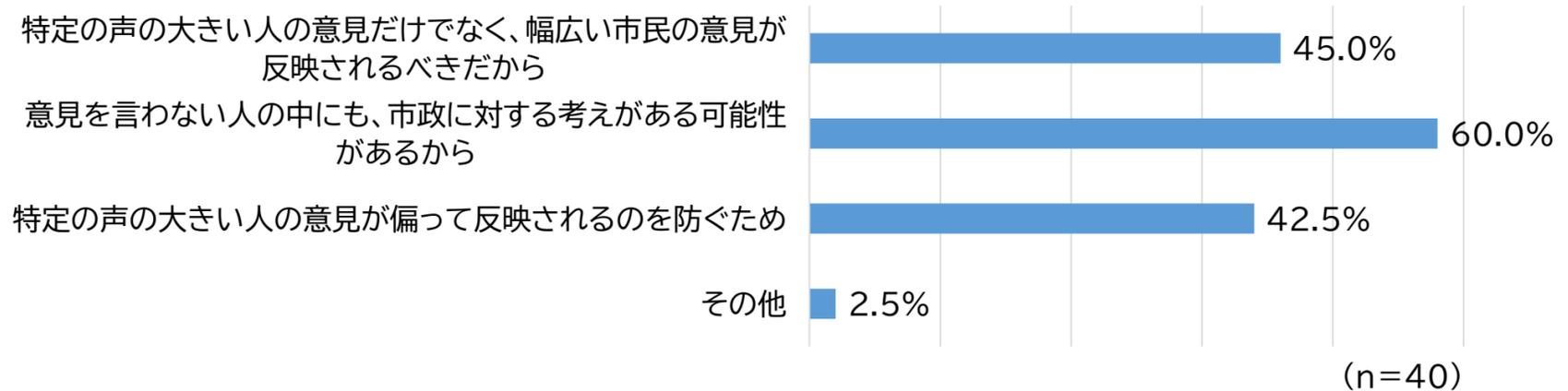


問6 問5の回答の理由は何ですか。

(1) 「1.非常に重要である」、「2.重要である」と回答(複数回答)

様々な意見に分かれたが、「意見を言わない人の中にも、市政に対する考えがある可能性があるから」が最も多く、6割であった。

選択肢	回答数	割合
特定の声の大きい人の意見だけでなく、幅広い市民の意見が反映されるべきだから	18	45.0%
意見を言わない人の中にも、市政に対する考えがある可能性があるから	24	60.0%
特定の声の大きい人の意見が偏って反映されるのを防ぐため	17	42.5%
その他	1	2.5%



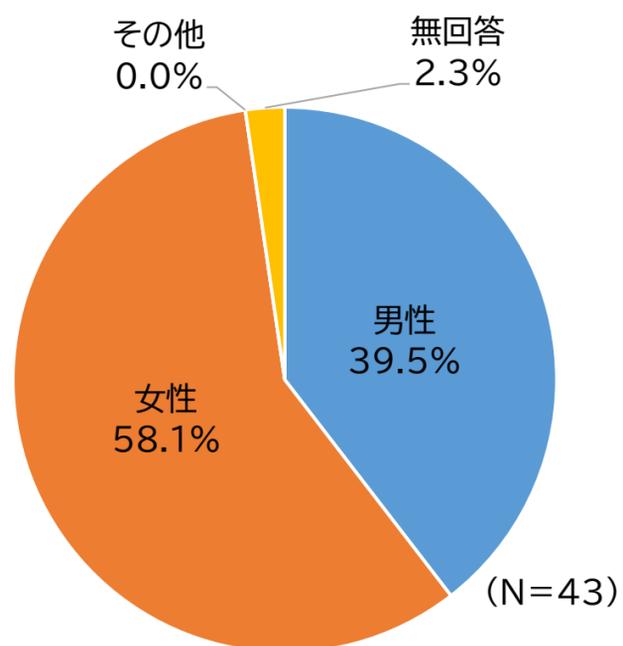
(2) 「4.あまり重要ではない」、「5.全く重要ではない」と回答(複数回答)

※該当者なし

問7 回答者さま自身について

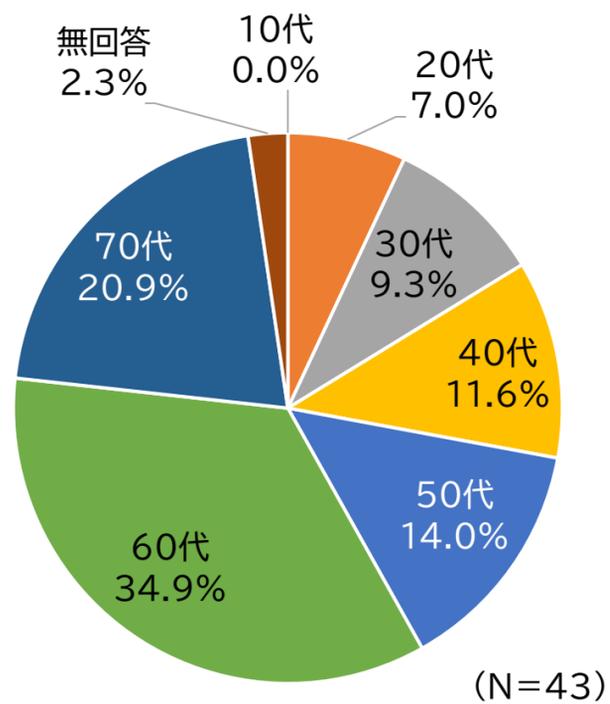
(1) あなたの性別を教えてください。(一つに○)

選択肢	回答数	割合
男性	17	39.5%
女性	25	58.1%
その他	0	0.0%
無回答	1	2.3%
合計	43	100.0%



(2) あなたの年代を教えてください。(一つに○)

選択肢	回答数	割合
10代	0	0.0%
20代	3	7.0%
30代	4	9.3%
40代	5	11.6%
50代	6	14.0%
60代	15	34.9%
70代	9	20.9%
無回答	1	2.3%
合計	43	100.0%



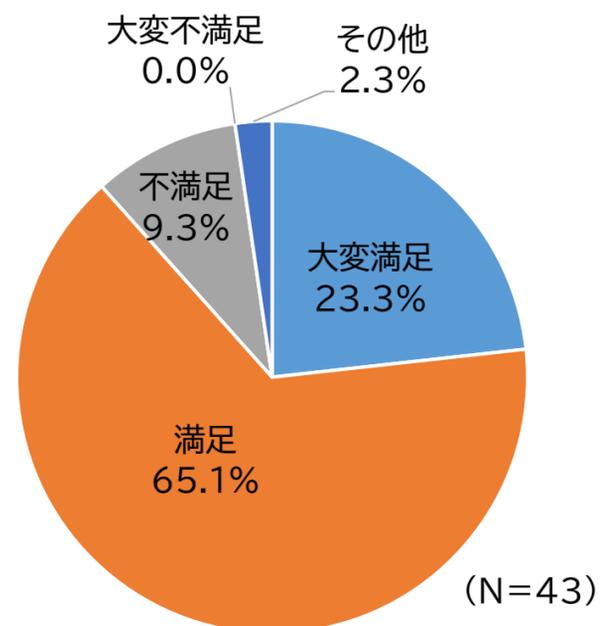
(2)事後アンケート

問1 市民ワークショップに参加して

(1) 参加された感想をお聞かせください。(一つに○)

「大変満足」「満足」と回答した人を合わせると約9割となった。

選択肢	回答数	割合
大変満足	10	23.3%
満足	28	65.1%
不満足	4	9.3%
大変不満足	0	0.0%
その他	1	2.3%
合計	43	100.0%

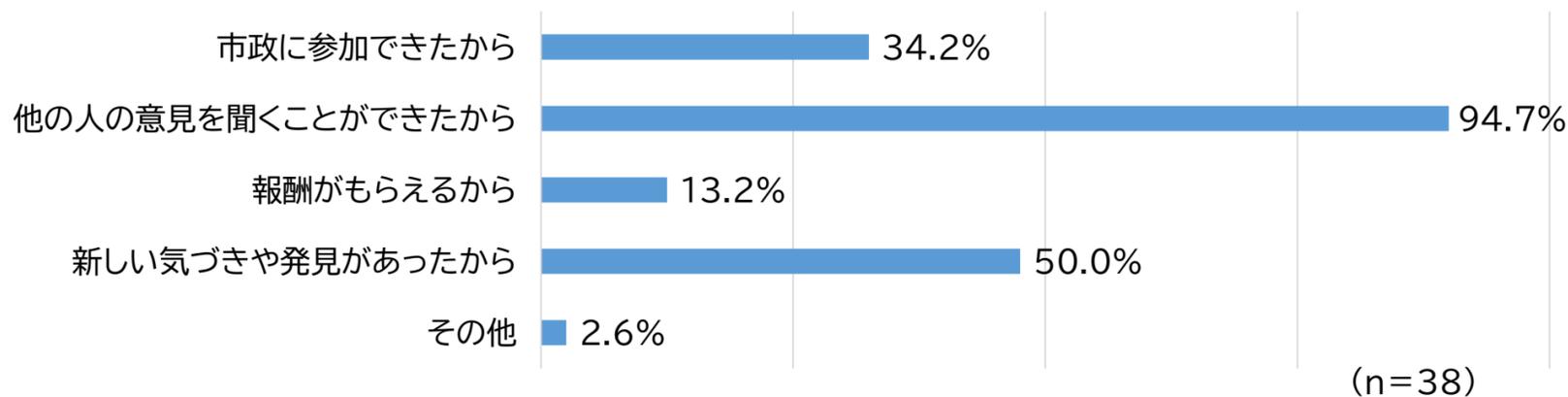


(2) (1)で「1. 大変満足」「2. 満足」とご回答された方にお伺いします。「その理由は何ですか」(複数回答)

「他の人の意見を聞くことができたから」が約95%と最も多く、「新しい気づきや発見があったから」が次いで50%の結果となった。

選択肢	回答数	割合
市政に参加できたから	13	34.2%
他の人の意見を聞くことができたから	36	94.7%
報酬がもらえるから	5	13.2%
新しい気づきや発見があったから	19	50.0%
その他	1	2.6%

<その他>
・札幌市の取り組みを知ることができたから

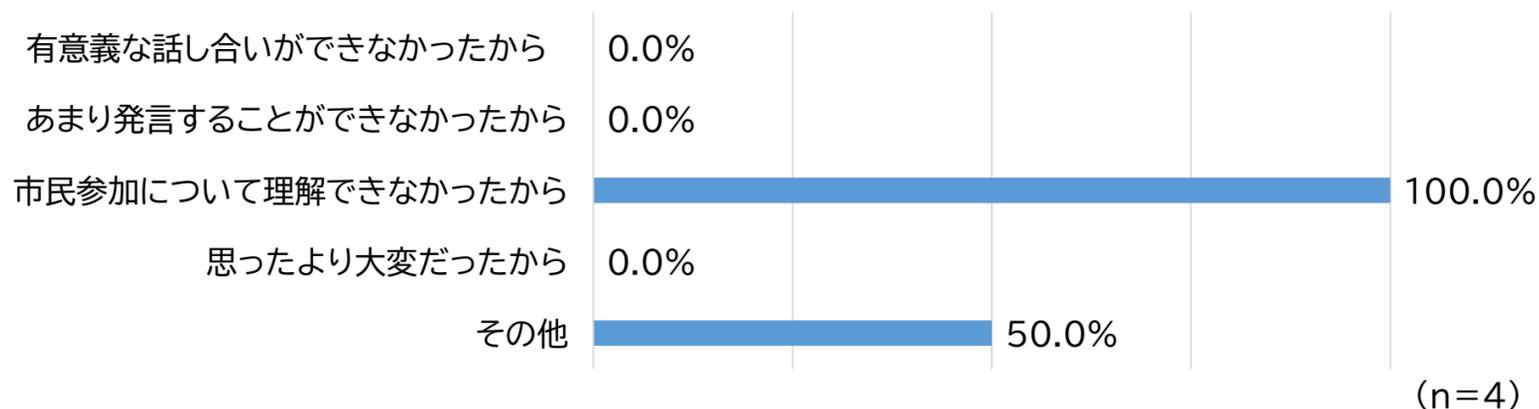


(3) (1)で「3. 不満足」「4. 大変不満足」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。
(複数回答)

4名中、全回答者が「市政参加について理解できなかったから」と回答した。

選択肢	回答数	割合
有意義な話し合いができなかったから	0	0.0%
あまり発言することができなかったから	0	0.0%
市民参加について理解できなかったから	4	100.0%
思ったより大変だったから	0	0.0%
その他	2	50.0%

<その他>
 ・思っていたものと違っていました
 ・意見の交通整理が不十分で、的を絞った話し合いにかけていたが、後半は少し改善された



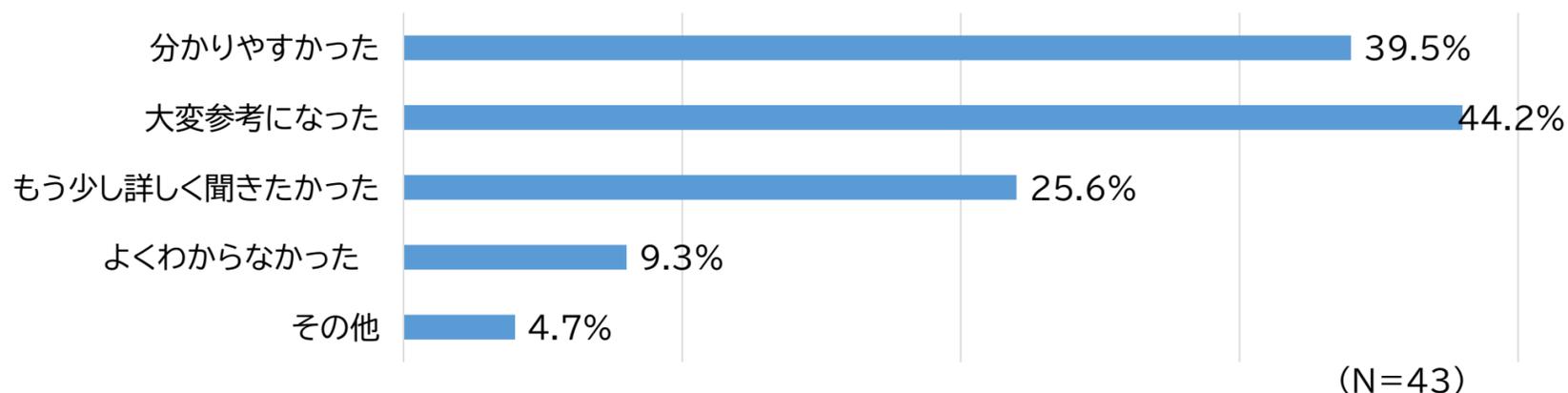
問2 情報提供について

(1) 札幌市の市民参加の取組や、サイレントマジョリティなどの情報提供について(複数回答)

「大変参考になった」が約44%と最も多く、「分かりやすかった」が次いで約40%の結果となった。

選択肢	回答数	割合
分かりやすかった	17	39.5%
大変参考になった	19	44.2%
もう少し詳しく聞きたかった	11	25.6%
よくわからなかった	4	9.3%
その他	2	4.7%

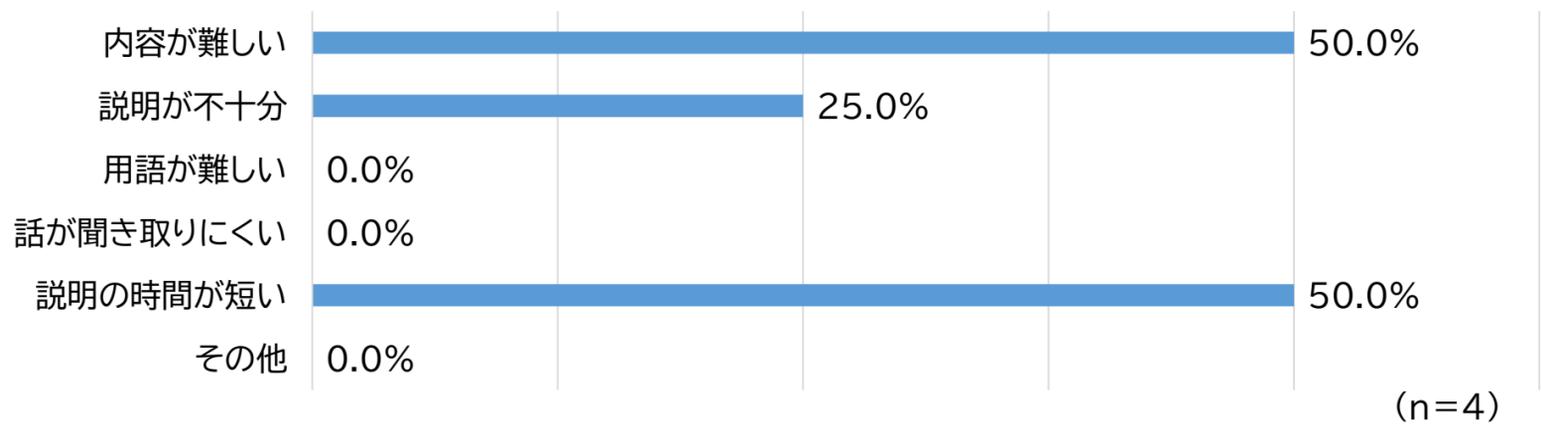
<その他>
 ・テーマが最高だった
 ・サイレントマジョリティの使い方に参加者と市の間でギャップがあった気がする



(2) (1)で「4. よくわからなかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。
(複数回答)

「内容が難しい」「説明の時間が短い」が4名中各2名の回答であった。

選択肢	回答数	割合
内容が難しい	2	50.0%
説明が不十分	1	25.0%
用語が難しい	0	0.0%
話が聞き取りにくい	0	0.0%
説明の時間が短い	2	50.0%
その他	0	0.0%

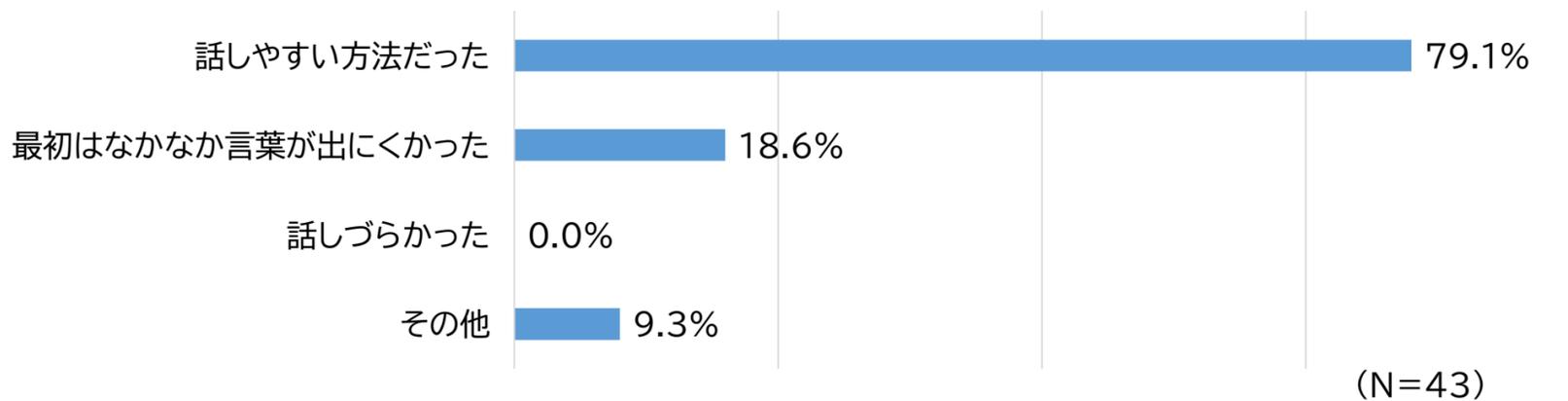


問3 話し合いについて
(1) 話し合いの方法について(複数回答)

「話やすい方法だった」と回答した人が最も多く、約8割 であった。

選択肢	回答数	割合
話しやすい方法だった	34	79.1%
最初はなかなか言葉が出にくかった	8	18.6%
話しづらかった	0	0.0%
その他	4	9.3%

<その他>
・話し合った内容を録音したらどうだったか？
※参加者が同意してからになるが
・司会の声が大きくて1部は話しにくかった。
聞こえにくかった



(2) (1)で「3. 話しづらかった」と回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。(自由回答)

※該当者なし

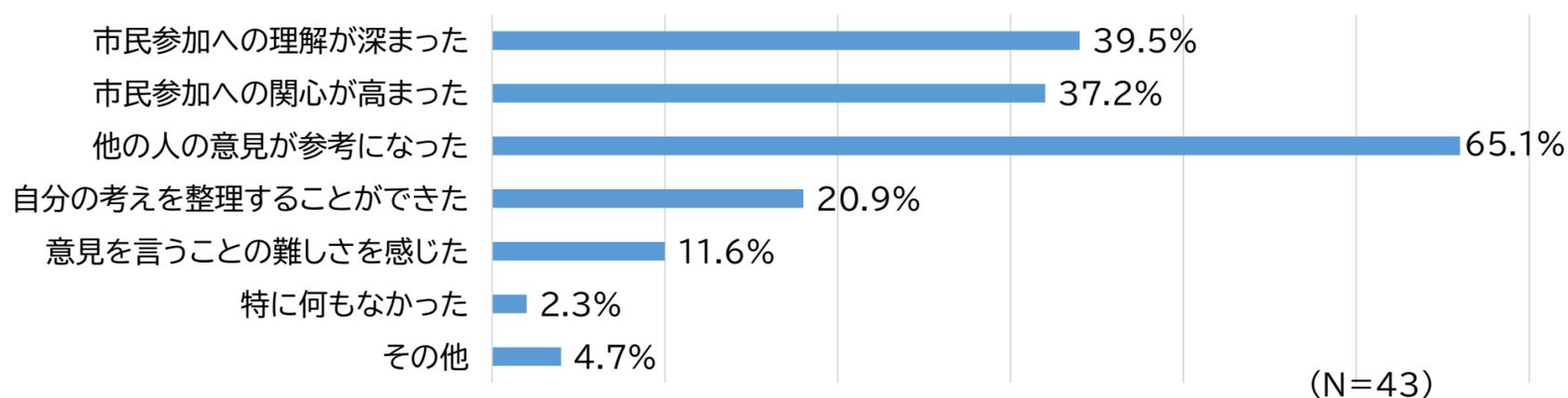
問4 参加して得たものは何ですか。(複数回答)

「他の人の意見が参考になった」が最も多く約65%、次いで「市民参加への理解が深まった」約40%、「市民参加への関心が高まった」約37%の結果となった。

選択肢	回答数	割合
市民参加への理解が深まった	17	39.5%
市民参加への関心が高まった	16	37.2%
他の人の意見が参考になった	28	65.1%
自分の考えを整理することができた	9	20.9%
意見を言うことの難しさを感じた	5	11.6%
特に何もなかった	1	2.3%
その他	2	4.7%

<その他>

- ・市民の声を集めてデータ化して、事後アクションプランに活かす設計の難しさ
- ・行政の作為を感じた



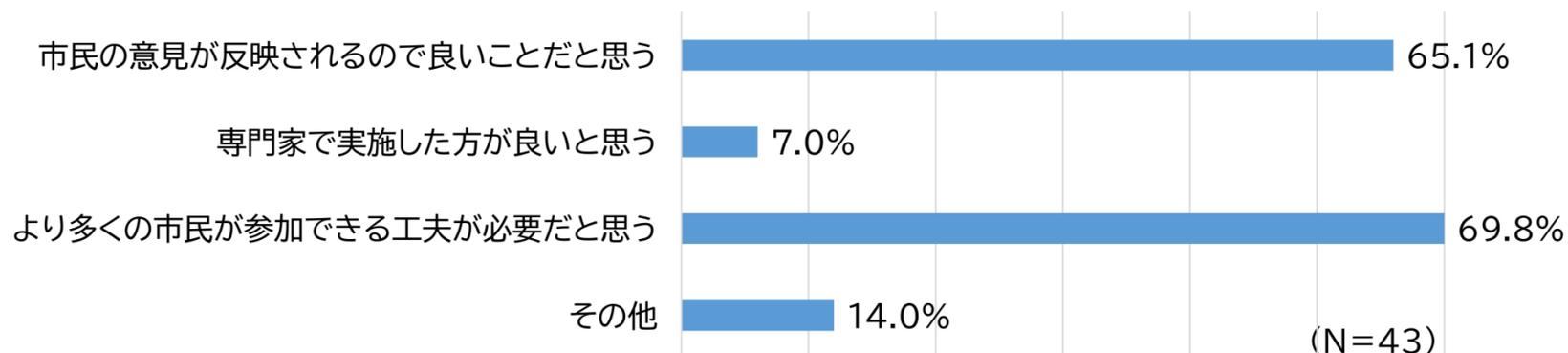
問5 市民が市政への参加やまちづくり活動について考え、意見を出すワークショップを実施することについて、どのように思いますか。(複数回答)

「より多くの市民が参加できる工夫が必要」が最も多く約70%、「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」が次いで約65%の結果となった。

選択肢	回答数	割合
市民の意見が反映されるので良いことだと思う	28	65.1%
専門家で実施した方が良いと思う	3	7.0%
より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う	30	69.8%
その他	6	14.0%

<その他>

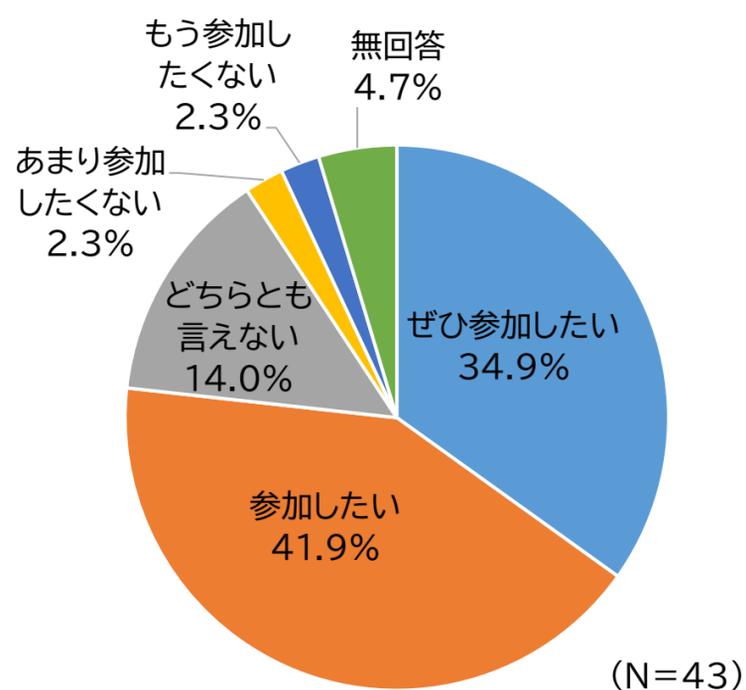
- ・もう少し市民に取り組みの成果を周知した方が良いと思います
- ・より誰もが意見を言えるデザインにするべき
例)文字情報、口頭の情報も取りこぼさない工夫
- ・市長、市議が参加した議論が必要かと
- ・1と2の中間。市民の意見が良いか、最終的に専門家をした方が良いか
- ・10代、20代の方がもっと参加できたらと思います
- ・内容によるが2の方がよい場合もあると思う



問6 今後もこのような取組に参加したいですか。(一つに○)

「ぜひ参加したい」「参加したい」と回答した人を合わせると、全体の8割近くとなった。

選択肢	回答数	割合
ぜひ参加したい	15	34.9%
参加したい	18	41.9%
どちらとも言えない	6	14.0%
あまり参加したくない	1	2.3%
もう参加したくない	1	2.3%
無回答	2	4.7%
合計	43	100.0%



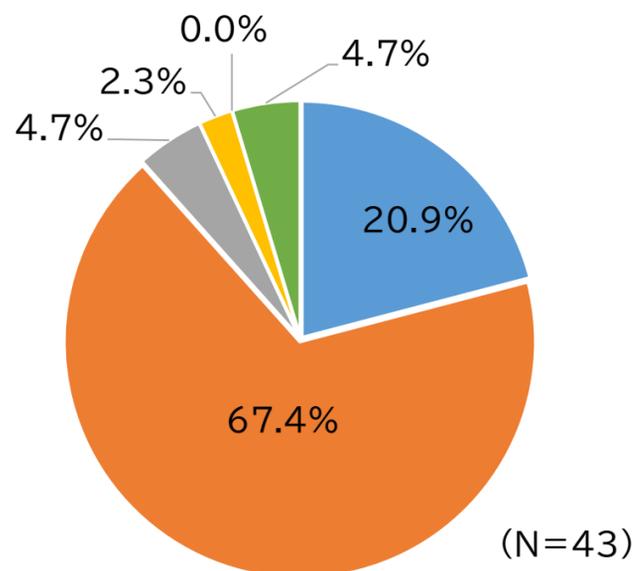
<その理由>(自由回答)

- ぜひ参加したい
 - ・自分の知識を深める良い機会となるから
 - ・自分の意見を主張しつつ、他の方の意見を聞いて自分の考えをブラッシュアップできるから
 - ・市民の声の集め方やその声のデータ化、実際のアクションへの展開が気になるので
 - ・現在の役職の役に立つ
 - ・幅広く市民の方の意見が聞ける
 - ・市が何を考えているのか知ることができるから
- 参加したい
 - ・他の人の意見や考え方が参考になるから。生活を良くしたい。
 - ・刺激になった
 - ・参加したいのはやまやまですが、家族は介護を必要とする者がいてその点が心配です
 - ・テーマにもよりますが参加したいと思います
 - ・もっとカテゴリー毎にしてほしい
- どちらとも言えない
 - ・私生活のタイミングによります
- あまり参加したくない
 - ・なかなか実現が難しいと思うので
- もう参加したくない
 - ・他の方への参加機会の提供

問7 市政への関心や参加について(一つに○)

「関心があり、負担が少なく手軽に参加できるものであれば参加したい」が約67%、次いで「関心があり、ある程度の時間や労力をかけても積極的に参加したい」が約21%の結果となった。

選択肢	回答数	割合
関心があり、ある程度の時間や労力をかけても積極的に参加したい	9	20.9%
関心があり、負担が少なく手軽に参加できるものであれば参加したい	29	67.4%
関心はあるが、参加したいとは思わない	2	4.7%
関心はないが、魅力的と思える条件や参加の依頼・誘い等、きっかけがあれば参加を考えても良い	1	2.3%
関心がなく、参加したいとは思わない	0	0.0%
無回答	2	4.7%
合計	43	100.0%

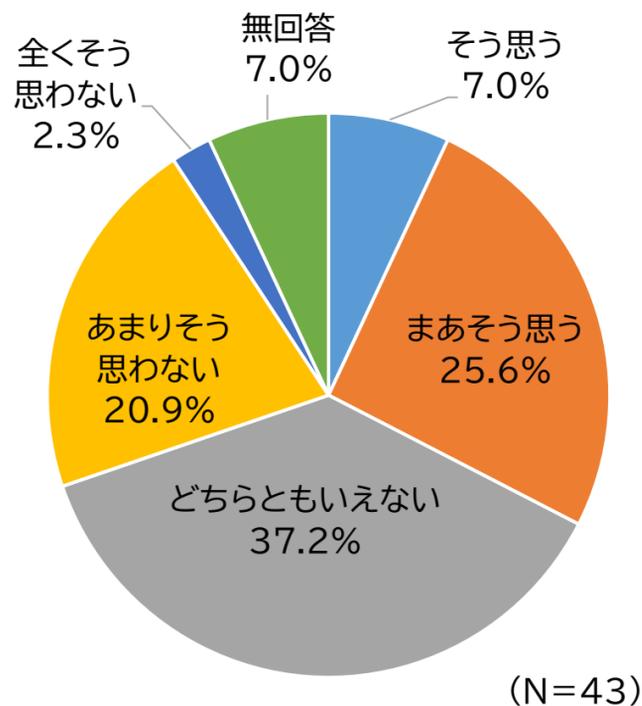


- 関心があり、ある程度の時間や労力をかけても積極的に参加したい
- 関心があり、負担が少なく手軽に参加できるものであれば参加したい
- 関心はあるが、参加したいとは思わない
- 関心はないが、魅力的と思える条件や参加の依頼・誘い等、きっかけがあれば参加を考えても良い
- 関心がなく、参加したいとは思わない
- 無回答

問8 現在、札幌市は、市民全体の意見をしっかりと聞き、(良い方向で)市政に反映していると思いますか。(一つに○)

「どちらともいえない」が最も多く全体の約37%、次いで、「まあそう思う」が約26%であった。

選択肢	回答数	割合
そう思う	3	7.0%
まあそう思う	11	25.6%
どちらともいえない	16	37.2%
あまりそう思わない	9	20.9%
全くそう思わない	1	2.3%
無回答	3	7.0%
合計	43	100.0%

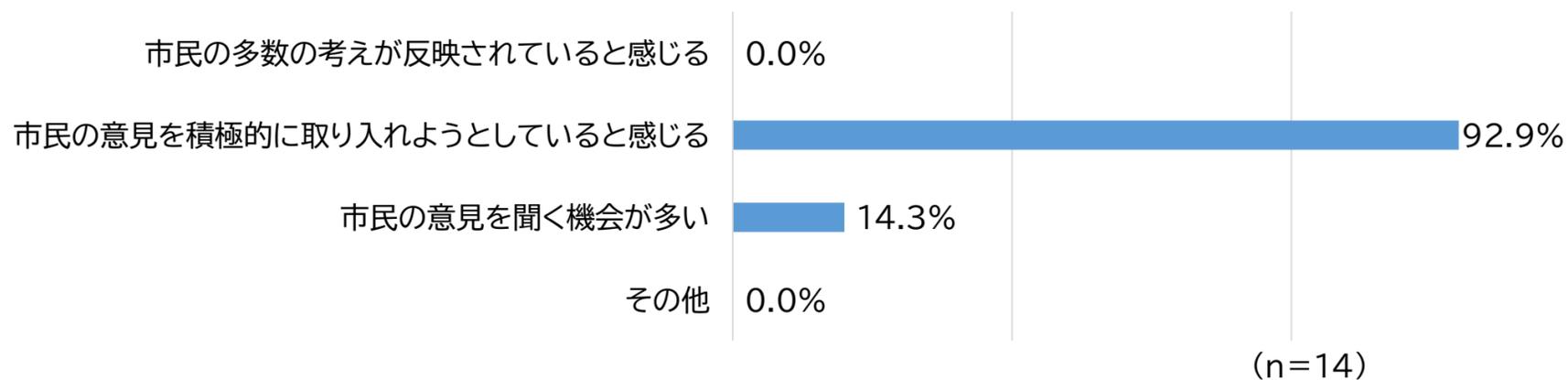


問9 問8の回答の理由は何ですか。

(1) 「1.そう思う」、「2.まあそう思う」と回答(複数回答)

「市民の意見を積極的に取り入れようとしていると感じる」が最も多く約93%であった。

選択肢	回答数	割合
市民の多数の考えが反映されていると感じる	0	0.0%
市民の意見を積極的に取り入れようとしていると感じる	13	92.9%
市民の意見を聞く機会が多い	2	14.3%
その他	0	0.0%

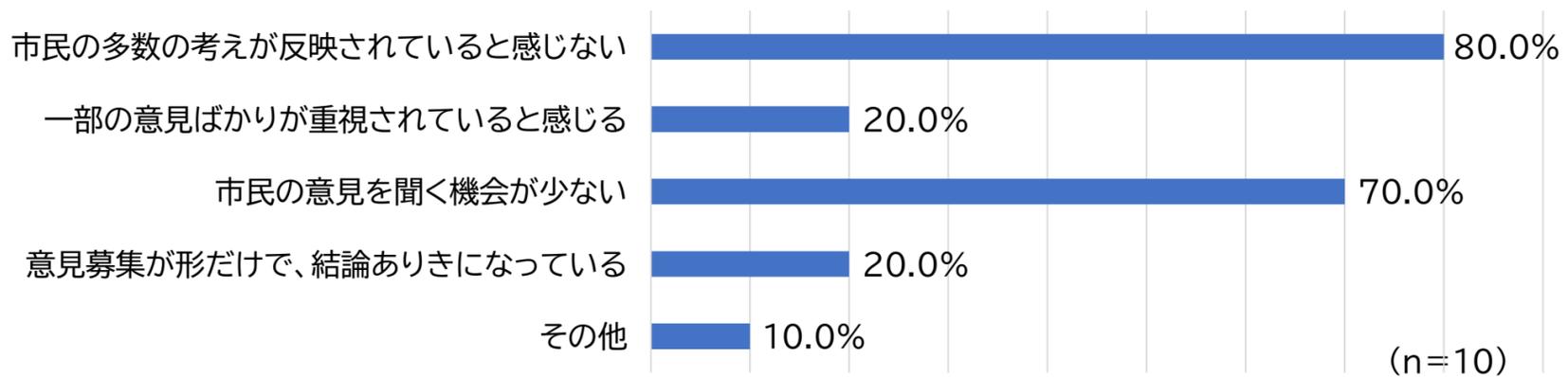


(2) 「4.あまりそう思わない」、「5.全くそう思わない」と回答(複数回答)

「市民の多数の考えが反映されていると感じない」が最も多く8割、次いで、「市民の意見を聞く機会が少ない」が7割の回答であった。

選択肢	回答数	割合
市民の多数の考えが反映されていると感じない	8	80.0%
一部の意見ばかりが重視されていると感じる	2	20.0%
市民の意見を聞く機会が少ない	7	70.0%
意見募集が形だけで、結論ありきになっている	2	20.0%
その他	1	10.0%

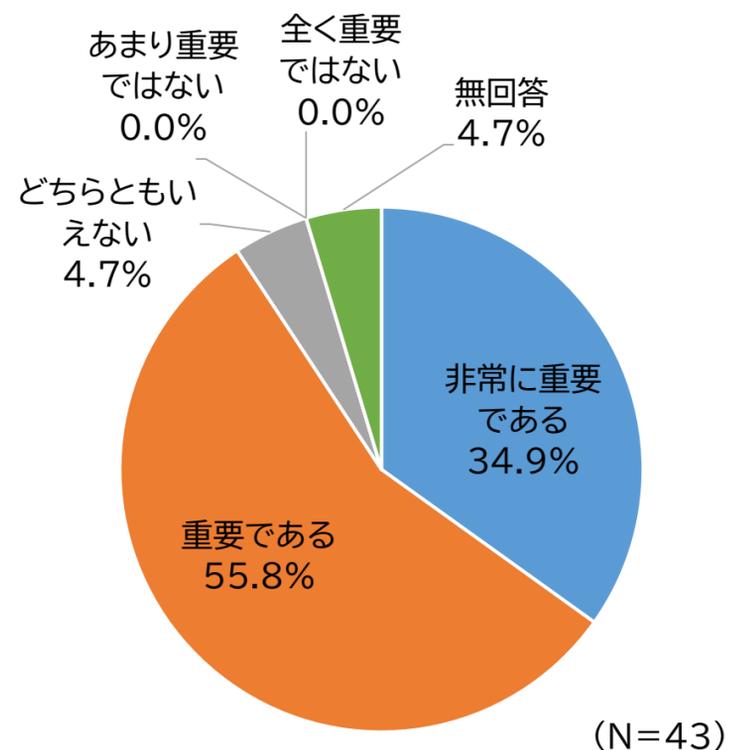
<その他>
何が話し合われ、どう変わったかわからないから



問10 あなたは 普段市政に意見を言う機会がない市民の意見を、市の政策に反映することはどの程度重要だと思えますか。(一つに○)

「非常に重要である」「重要である」と回答した人を合わせると約9割の結果となった。

選択肢	回答数	割合
非常に重要である	15	34.9%
重要である	24	55.8%
どちらともいえない	2	4.7%
あまり重要ではない	0	0.0%
全く重要ではない	0	0.0%
無回答	2	4.7%
合計	43	100.0%

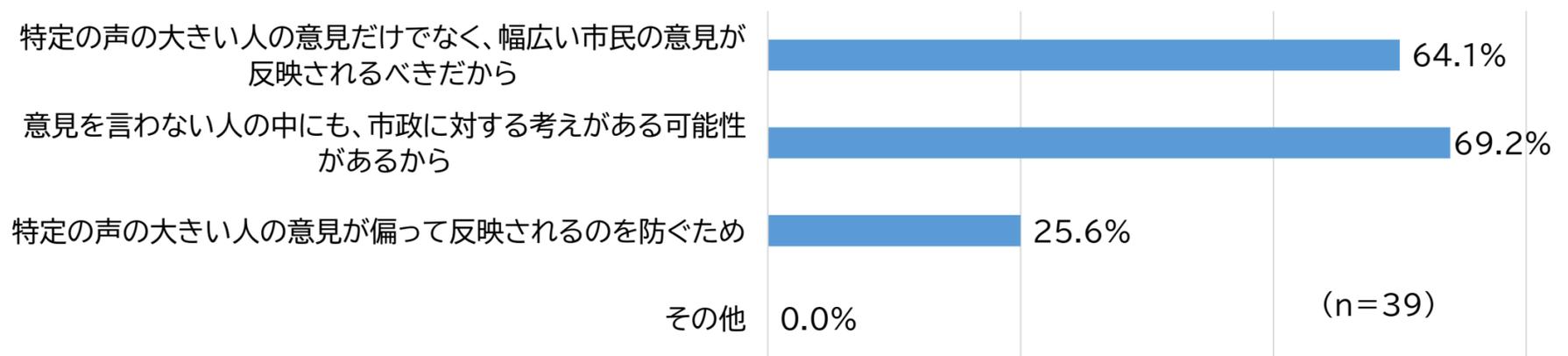


問11 問10の回答の理由は何ですか。

(1) 「1.非常に重要である」、「2.重要である」と回答(複数回答)

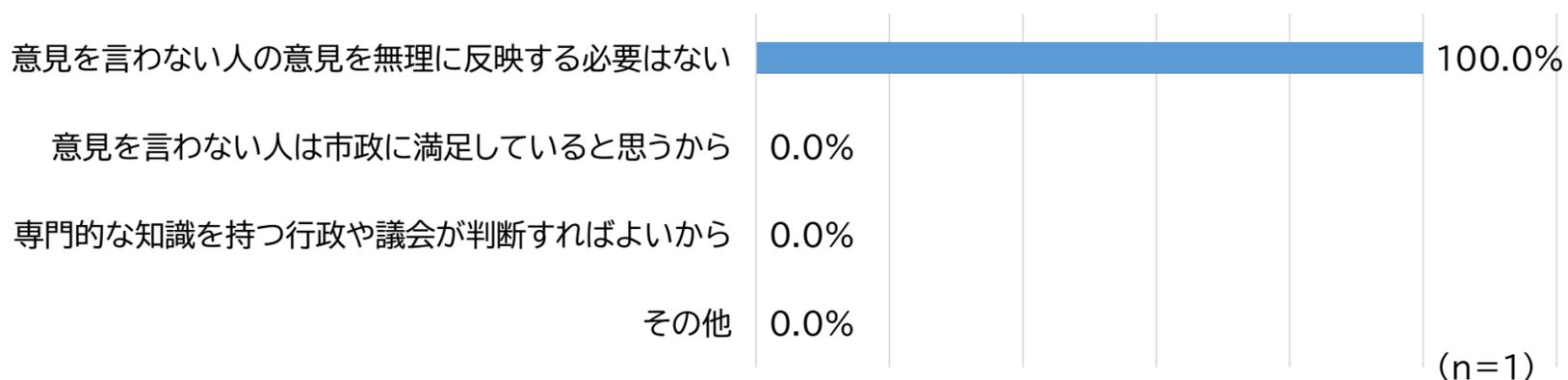
「意見を言わない人の中にも、市政に対する考えがある可能性がある」が最も多く約69%、「特定の声の大きい人の意見だけでなく、幅広い市民の意見が反映されるべきだから」が次いで約64%の結果となった。

選択肢	回答数	割合
特定の声の大きい人の意見だけでなく、幅広い市民の意見が反映されるべきだから	25	64.1%
意見を言わない人の中にも、市政に対する考えがある可能性があるから	27	69.2%
特定の声の大きい人の意見が偏って反映されるのを防ぐため	10	25.6%
その他	0	0.0%



(2) 「4.あまり重要ではない」、「5.全く重要ではない」と回答(複数回答)

選択肢	回答数	割合
意見を言わない人の意見を無理に反映する必要はない	1	100.0%
意見を言わない人は市政に満足していると思うから	0	0.0%
専門的な知識を持つ行政や議会が判断すればよいから	0	0.0%
その他	0	0.0%

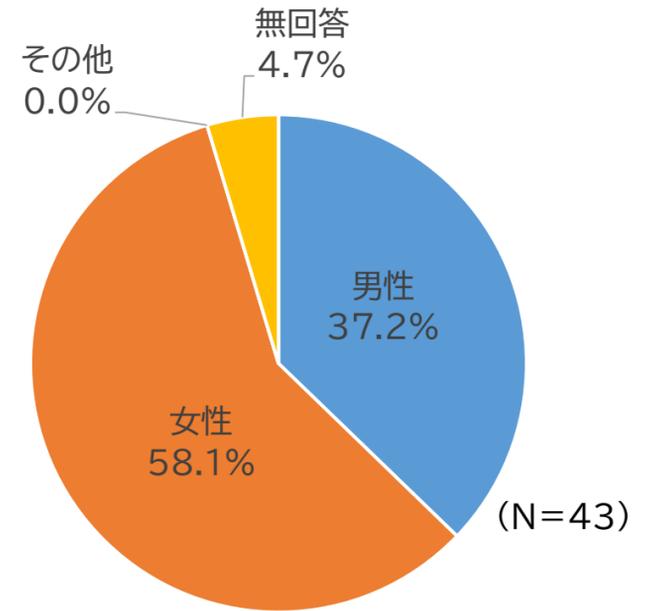


※問10で「3.どちらともいえない」と回答した1名の方が回答

問12 回答者さま自身について

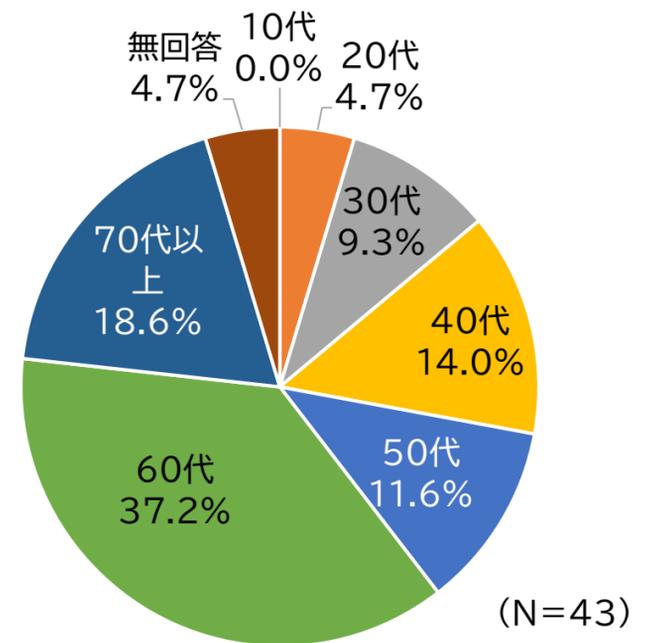
(1) あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	割合
男性	16	37.2%
女性	25	58.1%
その他	0	0.0%
無回答	2	4.7%
合計	43	100.0%



(2) あなたの年代を教えてください。

選択肢	回答数	割合
10代	0	0.0%
20代	2	4.7%
30代	4	9.3%
40代	6	14.0%
50代	5	11.6%
60代	16	37.2%
70代以上	8	18.6%
無回答	2	4.7%
合計	43	100.0%



**問13 その他、ご意見・ご感想、ワークショップのあり方などについてご自由にお書きください。
(自由回答)**

※ご意見等の概要を記載

【感想】

- ・楽しく参加させていただき、貴重な体験をありがとうございました。サイレントマジョリティには、それぞれの興味あるテーマを投げかけることで自分事となれば良いと感じた。また、当事者が積極的になることが必要だと感じた。
- ・スタッフの方がいて、まとめを発表してくれてありがたかった。札幌市民としてできることをやっていきたい。

【ワークショップの運営について】

- ・運営側のマイク音で、メンバーの発言が聞き取りにくい場面があった。
- ・ファシリテーターには、テーマから逸れないようにしっかり舵取りし、もう少し主導権を握って進行し、話しやすい場にしてほしかった。
- ・意見の集め方について、付箋に文字を書くのみだと意見が限られる。書くのが苦手、指をケガした、視聴覚障害など参加者によっては書けない事情がある。発言をメモする書記や録音・文字起こしなども運営方法に取り入れてほしい。文字以上に本音が出てくる可能性もある。
- ・市職員が進行するものと思っていたが、実際は運営事業者に任せていたことに驚いた。できれば進行、まとめを含め、市職員が主体で完結できる体制が望ましい。
- ・グループのファシリテーターの方の進行や意見の引き出し方が素晴らしく、活発な議論が生まれた。

【参加者の層について】

- ・10代、20代の参加者がいないのが気になった。条例で年齢が決められているのだろうか。
- ・10代、20代の参加者が多いとまた違った結果になったと思う。

【テーマ設定の方法】

- ・市の方から問題テーマを提示してもらい、それについて議論をするのはどうか。
- ・自分たちでテーマを決めて話し合いもしたかった。

【情報発信・フィードバック】

- ・今回の意見がどこに、どのように反映されるのか楽しみである。どこを見ればそれがわかるのか。
- ・広報などを通じて、ワークショップの情報や結果、風景、今後どうしていくのかを知りたい。自分からも他の人たちに発信し、参加が恥ずかしくないことを伝えたい。
- ・やったというので終わってほしくない。

【その他】

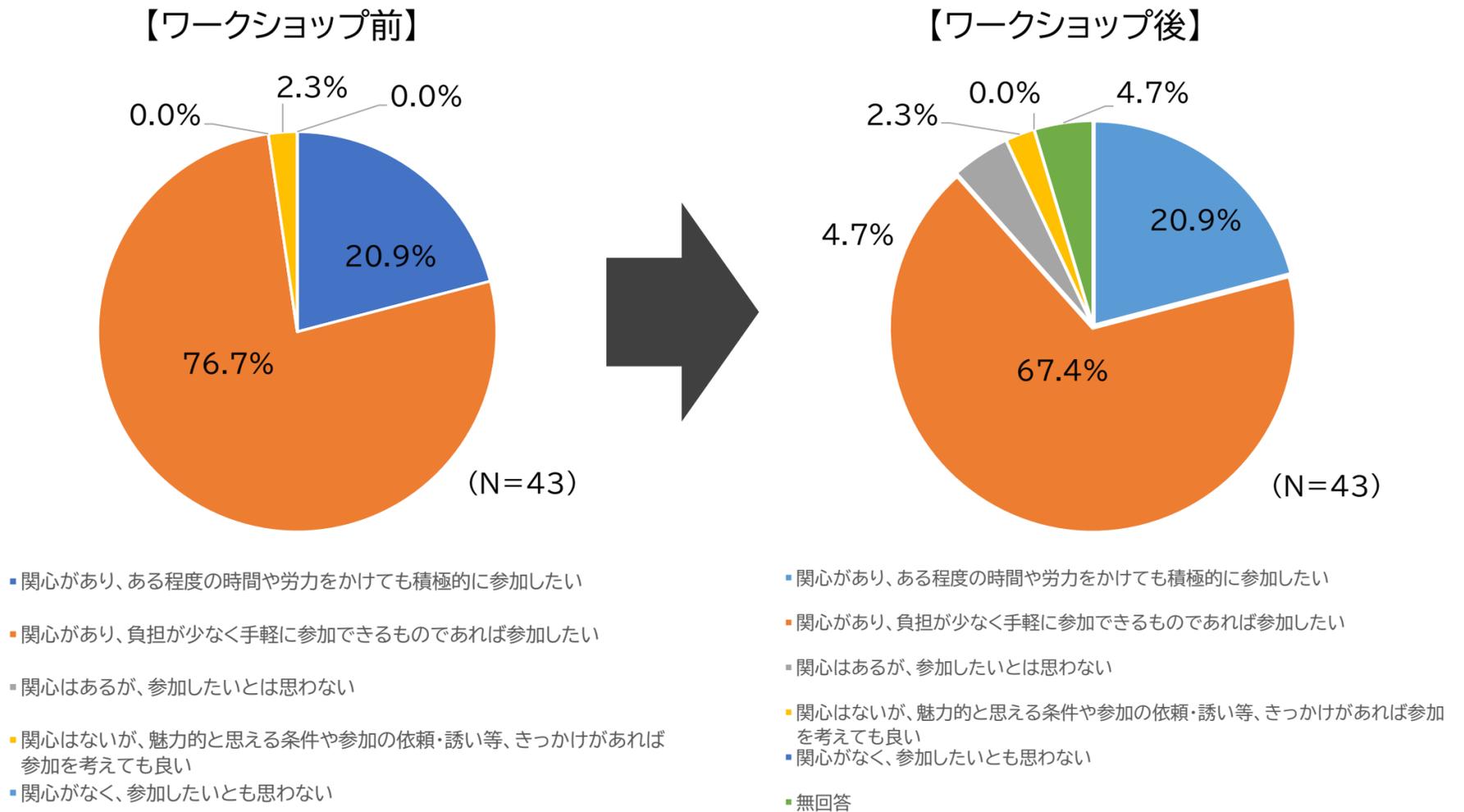
- ・仕事柄少子化問題に関する良いアイデアがあるので、市に意見したい。どこに相談したら良いか教えてほしい。
- ・市民も市もお互いのことを知らず、興味がないという印象であった。まずはここからだと思う。

3. ワークショップ前後の参加者の意識の変化

ワークショップの前後における参加者の意識の変化を確認するため、事前・事後のアンケートで4つの設問について同じ設問を設定した。結果は次のとおり。

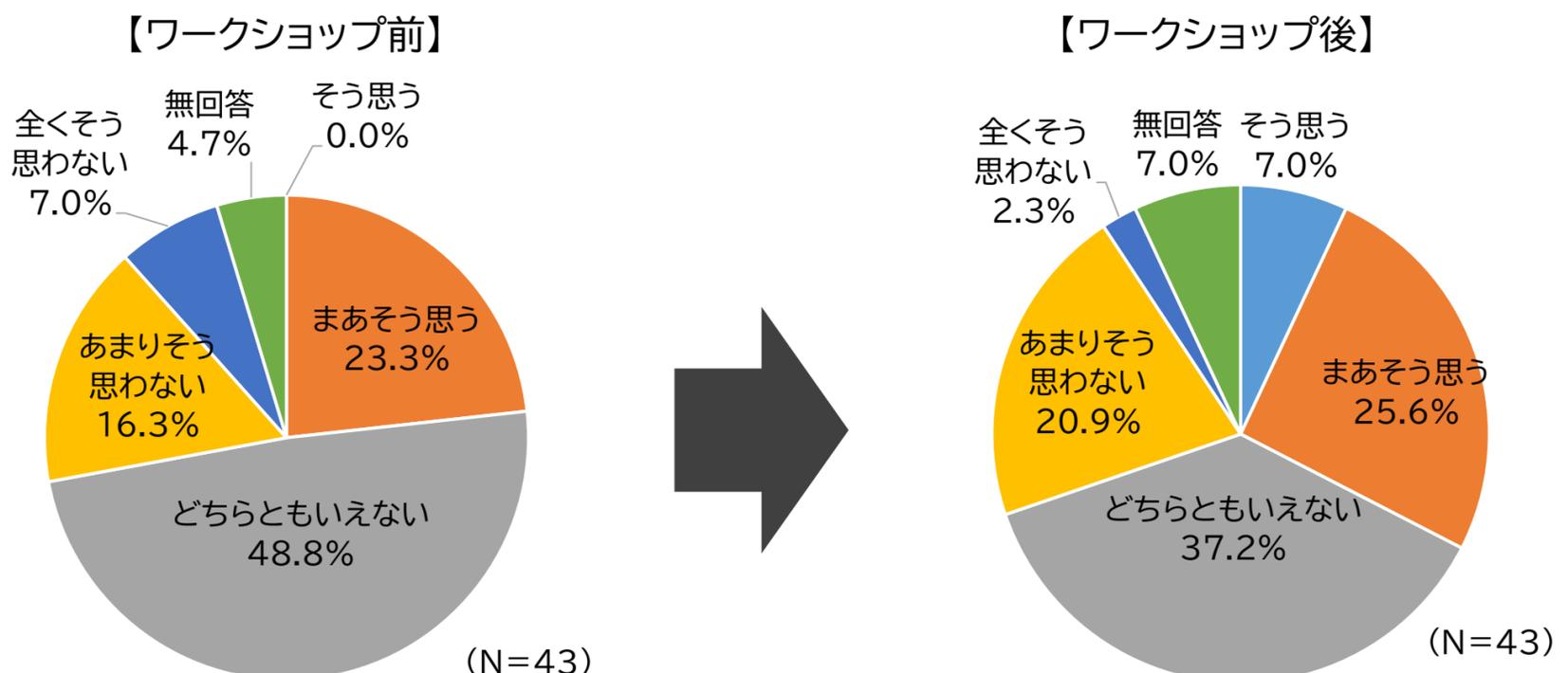
1. 市政への関心や参加について(一つに○)

ワークショップ前と後では、「関心があり、ある程度の時間や労力をかけても積極的に参加したい」と答えた人数は変わらなかったが、「関心があり、負担が少なく手軽に参加できるものであれば参加したい」が33名(約77%)から29名(約67%)に減った。



2. 現在、札幌市は、市民全体の意見をしっかりと聞き、(良い方向で)市政に反映していると思いますか。(一つに○)

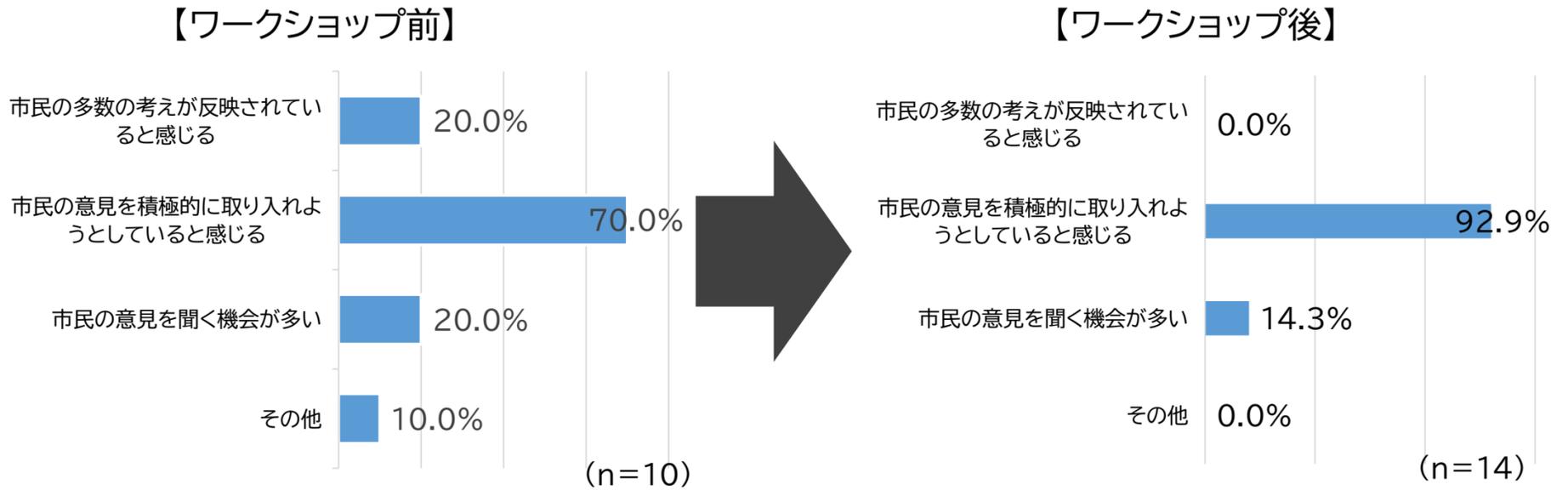
ワークショップ前と後では、「そう思う」「まあそう思う」が10名(約23%)から14名(約33%)に増え、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」は同数であった。



3. 2の回答の理由は何ですか

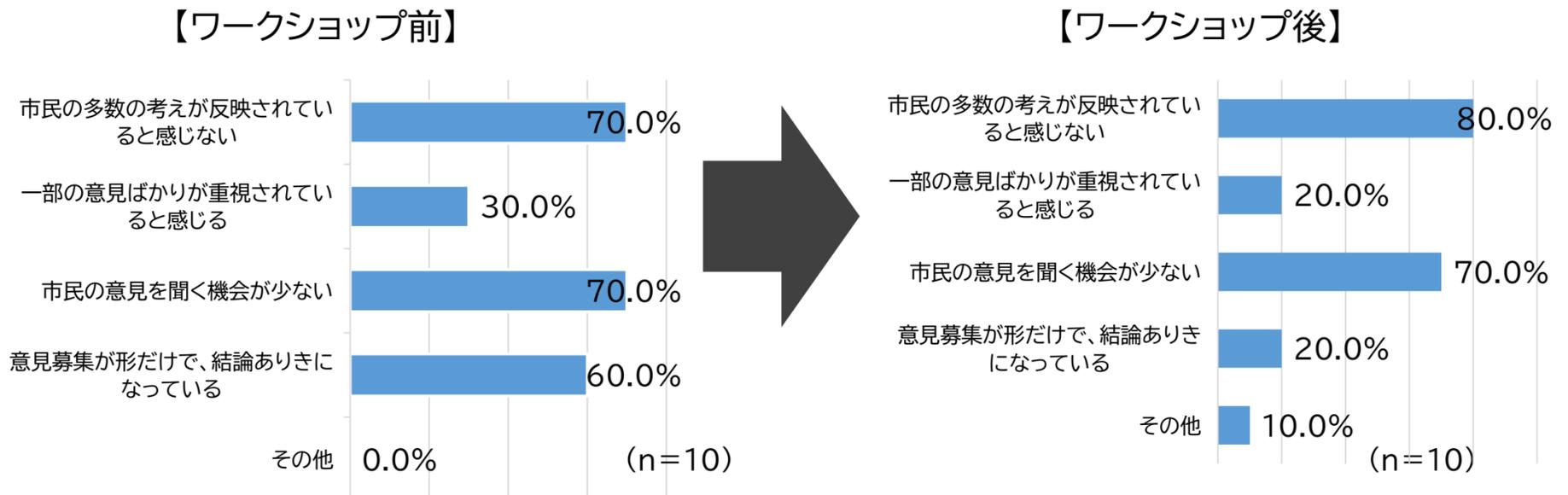
(1) 「1.そう思う」、「2.まあそう思う」と回答(複数回答)

ワークショップ前と後では、「市民の意見を積極的に取り入れようとしていると感じる」が7名(70%)から13名(約93%)に増えた。



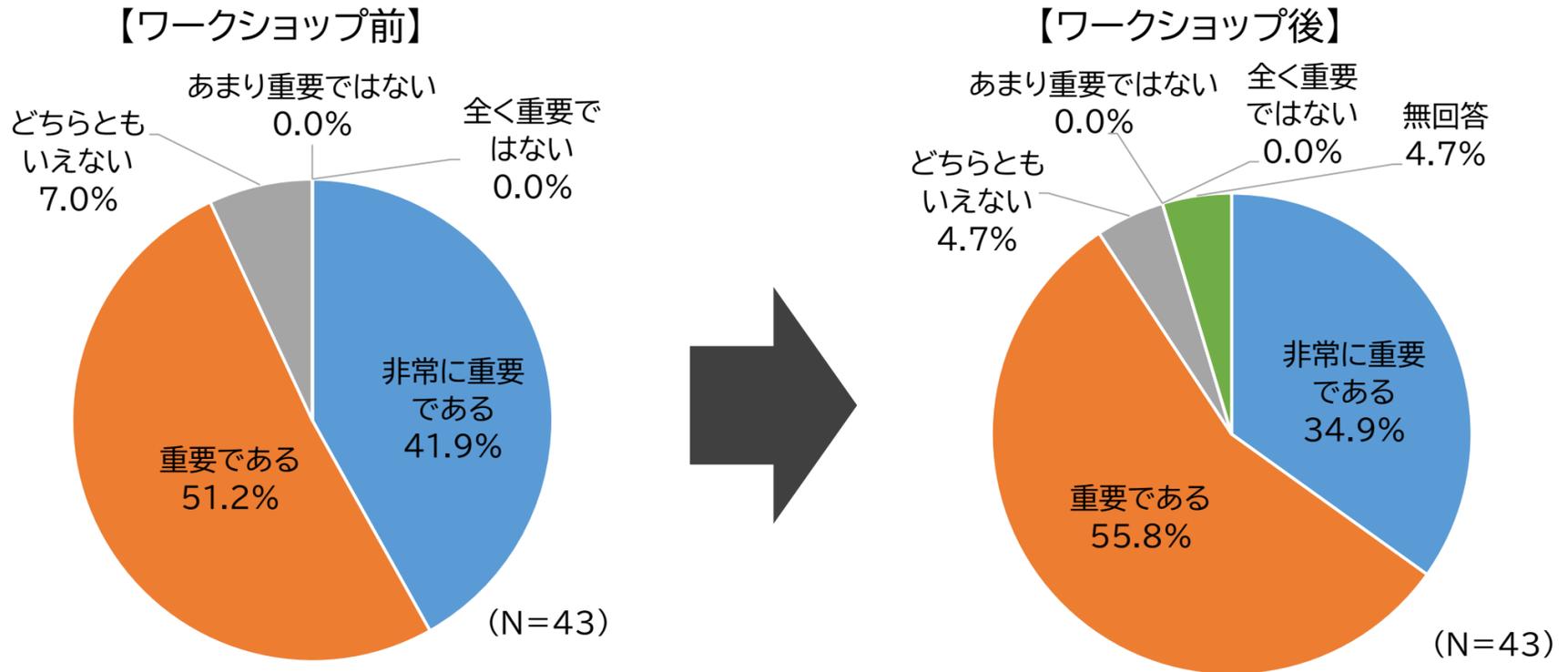
(2) 「4.あまりそう思わない」、「5.全くそう思わない」と回答(複数回答)

ワークショップ前と後では、「意見募集が形だけで、結論ありきになっている」が6名(60%)から2名(20%)に減少した。



4. あなたは、普段市政に意見を言う機会がない市民の意見を、市の政策に反映することはどの程度重要だと思いますか。(一つに○)

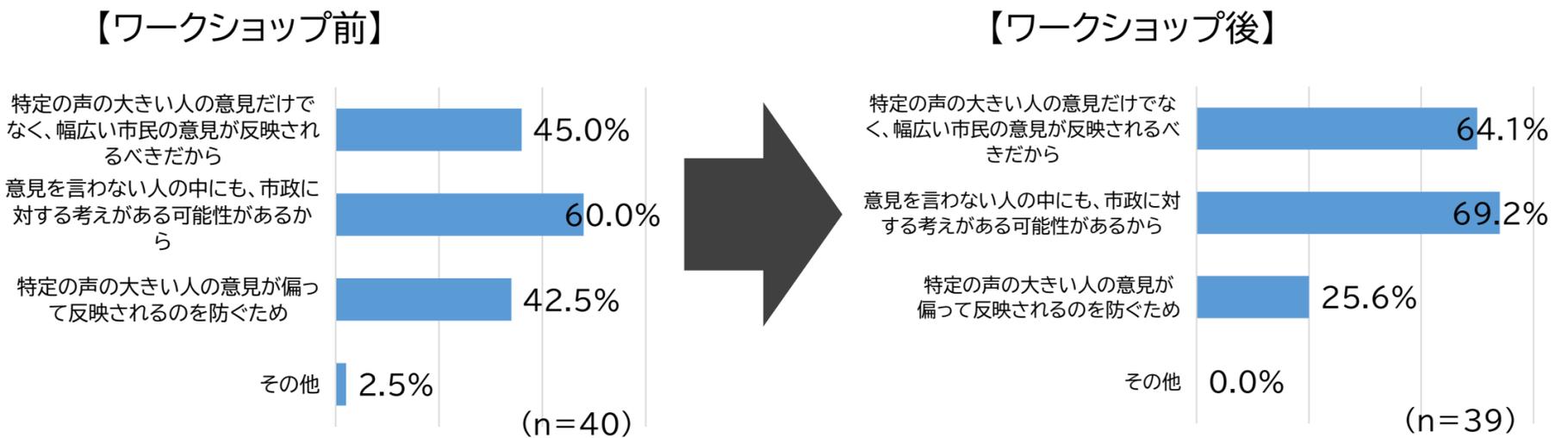
ワークショップ前と後では、傾向はほぼ変わらなかった。



5. 4の回答の理由は何ですか。

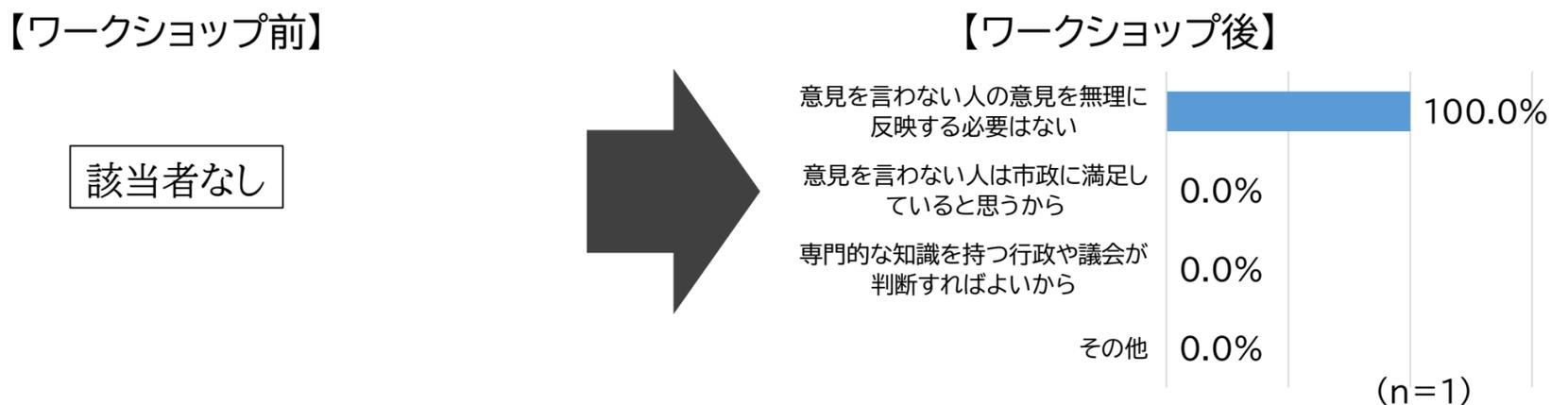
(1) 「1.非常に重要である」、「2.重要である」と回答(複数回答)

「特定の声の大きい人の意見だけでなく、幅広い市民の意見が反映されるべきだから」が18名(約43%)から25名(約64%)に増えた。一方で、「特定の声の大きい人の意見が偏って反映されるのを防ぐため」が17名(約43%)から10名(約26%)に減少した。



(2) 「4.あまり重要ではない」、「5.全く重要ではない」と回答(複数回答)

ワークショップ前は該当する回答がなかったが、1名がワークショップ後は「意見を言わない人の意見を無理に反映する必要はない」と回答した。



4. 参加者アンケート結果のまとめ

(1) ワークショップ全体について

- ワークショップに参加した満足度については、「大変満足」と「満足」と回答した人が38名(88.4%)となった。その理由としては、「他の人の意見を聞くことができたから」が36名(94.7%)と最も多く、次いで、「新しい気づきや発見があったから」が19名(50.0%)であった。
- また、話し合いの方法については、「話しやすい方法だった」という回答が34名(79.1%)であった。一方で、8名(18.6%)の方が、「最初はなかなか言葉が出にくかった」という回答をしていた。

(2) 情報提供について

- 情報提供については、「大変参考になった」が19名(44.2%)、「分かりやすかった」が17名(39.5%)と多かったが、「もう少し詳しく聞きたかった」という意見も11名(25.6%)あった。

(3) ワークショップについて

- ワークショップを実施することに関しては、「より多くの市民が参加できる工夫が必要」という回答が30名(69.8%)と最も多く、次いで「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」が28名(65.1%)であった。この結果から、多くの参加者がワークショップの実施に対して評価している一方で、開催方法や参加者の募集方法などについての工夫が求められていることがわかった。
- 今後の参加意向については、「ぜひ参加したい」が15名(34.9%)、「参加したい」が18名(41.9%)と高く、回答理由では、「自分の意見を深める良い機会となる」「幅広く市民の方の意見を聞くことができる」「市が何を考えているのか知ることができる」といった理由がみられた。
- 参加して得たものについても、「他の人の意見が参考になった」が28名(65.1%)と最も多く、様々な世代、立場で一つのテーマを議論することにより、多様な意見に触れることができた参加者が多かったものと考えられる。また、「市民参加への理解が深まった」が17名(39.5%)、「市民参加への関心が高まった」が16名(37.2%)と多く、このワークショップが、市民参加を考えるきっかけになったと考えられる。

(4) 市民意見の市政への反映について

- 市政への関心や参加について、「関心があり、負担が少なく手軽に参加できるものであれば参加したい」が29名(67.4%)と最も多く、次いで、「関心があり、ある程度の時間や労力をかけても積極的に参加したい」が9名(20.9%)であった。多くの参加者が市政に関心を持っており、特に負担が少なく手軽に参加できる方法を求めていることがわかった。
- 市民の意見を聞き、市政に反映していると思うかについては、「どちらともいえない」が16名(37.2%)と最も多く、次いで「まあそう思う」11名(25.6%)、「そう思う」3名(7.0%)と評価している参加者も同程度の結果となった。評価している理由としては、「市民の意見を積極的に取り入れようとしていると感じる」が13名(92.9%)と多かった。一方で、「あまりそう思わない」9名(20.9%)と評価していない参加者も一定数おり、市民の意見を市政に反映させるためのさらなる取組が求められる。
- 普段市政に意見を言う機会がない市民の意見を市政に反映する重要性については、「重要である」24名(55.8%)、「非常に重要である」15名(34.9%)と高かった。回答理由としては、「意見を言わない人の中にも、市政に対する考えがある可能性があるから」27名(69.2%)と最も高く、次いで「特定の声の大きい人の意見だけでなく、幅広い市民の意見が反映されるべきだから」が25名(64.1%)であった。この結果から、参加者は市政に対する多様な意見の反映を重視しており、特に、普段市政に意見を言わない市民の声を拾い上げることが重要であると認識していることが伺える。

第5章 ワークショップのまとめ

本業務のワークショップでは、前後半で2つのテーマについて議論を行った。

一つ目は、札幌市がこれから市民参加を推進していく上で、現在進めている取組を市民に評価してもらうため、「札幌市で進めている市民参加の取組みを評価しよう！」というテーマで行った。

二つ目は、普段市政に意見を表明しない多数派を占めるサイレント・マジョリティの市民参加を促進するための方法について、意見やアイデアを出してもらうため、「サイレント・マジョリティが市政に参加するためには？」というテーマで行った。

どのグループも積極的に意見が出る状況が続き、活発な議論が行われた。なお、参加者から出された意見をもとに、ワークショップの結果をまとめると次のとおり。

1.「札幌市で進めている市民参加の取組みを評価しよう！」について

札幌市の取組について、4段階評価で「良い」が最も多く(43人中31.5人)、SNSの活用や早い段階での意見収集、新しいことに挑戦している点を評価する声が多く見られた。

一方で、「新しい取組みを行ったということだけに満足せず、結果を出してほしい」「もっと多様な取組をすべき」といった今後の取組みに期待する声もあった。

また、「このような取組みをしていることを初めて知った」「札幌市が抱えている問題を周知することが重要」など、市の取組や課題などの市民への情報発信の必要性を求める意見が見られた。

このような取組が増えた場合の参加意欲の変化については、3段階評価で「増える」(43人中21人)、「変わらない」(22人)となっており、「減る」という意見はなかった。変わらない理由としては、本件のワークショップに参加してる層のため、「もともと参加意欲が高い」という理由が多かった。

また、「自分の意見がどのように活かされたのか、結果がわかると意欲が増す」「市政について知る機会が増すと参加したいと思うようになる」「市民の声が届くのであれば参加したい」といった声が挙がっており、市政への参加意欲を高めるためには、市政に関する情報をわかりやすく提供し、結果についてフィードバックを行うなど、情報発信を充実させることが求められていることがわかった。

2.「サイレント・マジョリティが市政に参加するためには？」について

サイレントマジョリティの分類について、自身がどの分類にあてはまるかを考えてもらったところ、除排雪では潜在参加層(負担軽減型)が最も多く(43人中18人)、次いで「積極参加型」(10人)であった。子育てでは、「沈黙層」が最も多く(15.5人)、次いで、「潜在参加層(きっかけ型)」(10.5人)となり、テーマによって異なる分類に当てはまるという回答が多く見られた。これは、同じ人であっても関心のある分野や置かれている状況などによって、市政への関わり方が変わることを示しており、サイレント・マジョリティには、様々な理由や背景があると考えられる。

サイレント・マジョリティが市政に参加しない(できない)理由については、「時間や余裕がない」、「意見を言ってもどうせ変わらない」、「参加方法がわからない」という意見がいくつものグループから挙げられた。また、「自分に関係のないテーマだと当事者意識が持てない」といった声もあった。

こうした理由を踏まえ、まず、「情報があればもっと参加したい」「日頃からかかわりのあるコミュニティ(企業、趣味)や、定期的に訪れる場所(スーパーなど)、立場や生活環境に合わせた情報発信が必要」といった意見が挙げられた。まずは行政がどのような取組をしており、市民がどのように関わられるのかという「情報」を多くの市民がアクセスしやすい形で届ける必要があり、既存の方法だけではなく、SNSでの発信や、人が多く集まる場所、身近なコミュニティを活かした情報提供など、市政に関する情報をより多くの市民に届くように、わかりやすく発信する工夫が求められる。

また、参加方法について、「対面とオンラインの併用」「アーカイブ配信」「SNS等で気軽に意見を述べる形」「アイデアだけの参加」「行政が地域に出向く」「お祭りなど楽しいイベントと組み合わせる」「発言したり、書いたりするのが得意でない人でも言いやすい場」など具体的な意見がいくつも出ており、それぞれの事情や状況に応じて、多様で柔軟な参加方法を充実させることが、参加促進につながると考えられる。

一方で、「自分の意見なんか届かない」「意見を集約した結果、どう変わったかを見える形で共有してほしい」という意見が挙げられた。1つ目のテーマでも多く出された意見であり、市民の意見がどのように政策に反映されたかを明示し、フィードバックを積極的に行って、市民が自分の意見が市政に反映されたと実感できるような仕組みが重要である。

また、「子どもの頃からの教育が必要」「小中学校の小さい頃からの参加を増やす仕組みづくり」という意見もあり、学校教育を通じて、具体的な市政課題について考えたり、話し合う機会をつくるなど、将来的な市民参加を促すための教育による意識醸成も行政に求められる取り組みの一つと言える。

3. 今後について

以上のように、サイレントマジョリティの声を引き出し、市政に参加してもらうためには、情報発信の充実、多様な参加方法、結果のフィードバック、そして教育による意識醸成といったさまざまな視点から、参加しやすい環境を整備することが求められる。

札幌市では、今回のワークショップでいただいたご意見を参考にし、さらなる市民参加の仕組みづくりの検討を進めていきたいと考えている。

第6章 資料編

1. 情報提供資料

令和6年度
市民ワークショップ

**市民参加ってなに？
市民の意見を市政に反映させるために**

日時：令和7年3月1日（土）13：00～16：00
場所：札幌市教育文化会館 研修室305
主催：札幌市 市民文化局 市民自治推進課

■本日のプログラム

13：00	1. 事前アンケート
13：05	2. 開会、ごあいさつ
13：10	3. 情報提供①（20分）
13：30	4. グループワークショップ①（40分） 札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう！
14：10	5. グループ発表（10分）

14：20	6. 休憩（10分）

14：30	7. 情報提供②（10分）
14：40	8. グループワークショップ②（40分） サイレント・マジョリティが市政に参加するためには？
15：20	9. グループ発表（20分）
15：40	10. 振り返り（10分）
15：50	11. 本日のまとめ（5分）
15：55	12. 閉会、アンケートのお願い
16：00	終了

■情報提供①

札幌市からの情報提供

SAPPORO

市民参加ってなに？
市民の意見を市政に
反映させるために

札幌市市民文化局 市民自治推進室

SAPPORO

自治基本条例
⇒まちづくりの基本となる条例

- 平成19年4月1日施行
- 「市民が主役のまちづくり」を進めるための基本ルール

条例で「市民参加」を重要なポイントとして定めている

SAPPORO

「市民参加」とは？

- ・ 身近な地域のまちづくりへの参加
(例)
町内会のごみ拾いに参加
高齢者や子どもの見守り活動に参加
- ・ **市政への参加** 本日のワークショップで考えていただくこと
(例)
市が開催する説明会や意見交換会に参加
市政に関するアンケートに回答

SAPPORO

～札幌市の市民参加の状況～

○パブリックコメント

条例や計画など、市の重要な政策を決める際に、広く市民の意見を募集し、意思決定に反映させる制度

※キッズコメント

子どもを対象にパブリックコメントを行うもの

○市民アンケート

市民のニーズや市の政策についての市民の意見を把握するために実施される調査

○ワークショップ

あるテーマについて、比較的少人数の様々な人たちが集まって話し合い、意見をまとめていくもの

市民参加の仕組み	実施時期	実施内容
条例・計画の策定に際しての市民参加	条例・計画の策定前	条例・計画の策定に際しての市民参加
条例・計画の策定後の市民参加	条例・計画の策定後	条例・計画の策定後の市民参加
条例・計画の策定前の市民参加	条例・計画の策定前	条例・計画の策定前の市民参加
条例・計画の策定後の市民参加	条例・計画の策定後	条例・計画の策定後の市民参加



他に、意見交換会、市民会議、シンポジウム、パネルディスカッション など

SAPP_RO

報道では、札幌市が開催する説明会等において、市民からの反対意見などで紛糾する場面が取り上げられることも・・・



SAPP_RO

報道で見聞きするものは、多くの市民が考えていることなのだろうか？



市は多くの市民が考えていることをしっかり把握できているの？

市民から届いた声を市政に反映できているの？



SAPP_RO

～札幌市が抱える課題～

○人口減少や少子高齢化に直面

⇒ 限りある資源（お金、人など）を効果的に配分する必要があり、市民意見を市政に反映する重要性が増している

○IT技術の急速な進展、ライフスタイルの多様化

⇒ 時代にあった市民参加の形も必要

SAPP_RO

そこで

市民意見を的確に把握し、市政に反映する仕組み（＝新たな市民参加の仕組み）が必要



SAPP_RO

課題 市民全体の声を十分に把握できていない

アンケート、ワークショップ、パブリックコメントなど複数の方法で意見を収集しているけど...



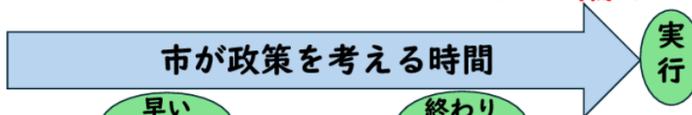
⇒ 把握できている意見は一部？

サイレントマジョリティ（物言わぬ多数派） ⇒ この意見も知りたい

⇒ **多様な市民意見を把握する必要がある！**

SAPP_RO

課題 市民意見を収集するタイミングの偏り



早い段階

方針

終わりの段階

現状

もっと早い段階で市民意見を聞く必要がある！

市民意見を聞くのが遅い

SAPP_RO

新たな市民参加の仕組みをつくるため

市政課題の中でも、

「**成人の日行事（成人式）**」をテーマに

市民の意見を把握した上で

市民とともに議論する取組を实践



札幌市の成人の日行事について

○各区の地域の方が中心となった

「区成人の日行事実施委員会」が主体となって開催

○財源は、市の補助金、企業からの協賛金、町内会からの負担金

○成人式の運営に課題（人員の確保・財政面など）がある

SAPP_RO

～成人式のあり方の検討の経過～

- ・様々な世代の市民の意見や議論の結果を踏まえて検討
- ・**市としての素案を決めず、市民の意見や議論の結果から今後の方向性を決める**

【成人式のあり方検討のスケジュール】



SAPPORO 16

①地域の方へのヒアリング

令和6年5～7月、各区成人の日行事実施委員会の関係者に**運営上の課題や市への要望などのヒアリング**を実施

ヒアリングの結果

- (主な意見)
- ・ボランティアの高齢化や委員の担い手不足が課題
 - ・これまでどおり区ごとに開催するのがよいのでは
 - ・札幌市からの補助金を増額してほしい
- (その他の意見)
- ・市が主催してはどうか
 - ・市内1か所での合同開催も検討してみてもどうか
 - ・クラウドファンディング等の寄付を集めてはどうか



SAPPORO 17

②市民へのアンケート調査

〇調査期間
令和6年5月22日～6月14日

〇調査対象

- ①19歳の市民3,000人(無作為抽出)
- ②市内大学生
- ③SNSを活用したオンライン調査
(札幌市公式LINE、札幌市広報部X、札幌広域圏スマートアプリの登録者、市公式HPを見た方)

※①②は紙の調査票を配布

〇調査結果
①～③の合計6,031人から回答を得た

SAPPORO 18

②市民へのアンケート調査

【アンケート調査の結果】

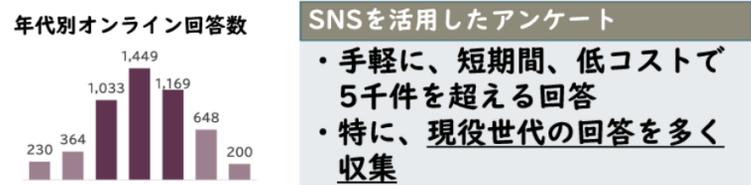
実施主体	開催場所	財源の確保
地域による開催希望が多いが、行政による開催希望との差はわずか	区ごとの開催希望が多いが、合同開催の希望も多い	限られた資金の中でできることを最も多く、企業の寄付や大規模な寄付を求める声も一定数ある
地域 41.8%	区ごと 45.1%	限られた資金でできることを 50.5%
行政 40.8%	合同開催 37.4%	企業の寄付 23.0%
		大規模な寄付 21.3%
		行政の補助 20.8%

- ・市民意見の傾向をつかむことができた
- ・成人式の論点と世代間の意見の違いが明確になった

SAPPORO 19

②市民へのアンケート調査

～SNSを活用したアンケート結果～



- SNSを活用したアンケート
- ・手軽に、短期間、低コストで5千件を超える回答
 - ・特に、**現役世代の回答を多く収集**

SAPPORO 20

③未来の成人式を考える市民会議

日時	第1回：10月27日(日) 9:30～17:00 第2回：11月4日(月・祝) 9:30～17:00
会場	札幌グランドホテル クリスタルホール
参加者	各回41名、合計82名
テーマ	成人式は今後どのような姿を目指していくのがよいか
論点	実施主体、開催場所、財源の確保

- ・会議の前に行った**市民アンケート**や**地域の方へのヒアリング結果**を基に**テーマと論点を設定**

正確でバランスのよい情報提供が必要!

- ・無作為で選ばれた市民が7名程度のグループに分かれ、市職員や地域の方から成人式に関する**情報提供**を受けたうえで、論点に沿って議論



- ・参加者は、年代、性別、居住区のバランスなども考え、様々な方に集まってもらった

SAPPORO 21

③未来の成人式を考える市民会議

市民会議の結果(最終アンケート調査結果)

- ◎主体 **地域と行政と若者による実行委員会**が実施することが望ましい
- ◎場所 **区ごと**で実施することが望ましい
- ◎財源 **市の補助を運営費の8～9割に増額**※することが望ましい(※現状の補助は65%)



市民による議論の結果を市政に反映

- ①**新成人などの若者の運営への参画**
- ②**新たな財源確保**の方向性が決定

SAPPORO 22

③未来の成人式を考える市民会議

市民会議の結果(会議終了後の市民会議の運営等に関するアンケートより)

- ・普段市政に意見を言う機会がほとんどない又はない⇒約8割
- ・会議をきっかけに市政課題の解決に向けて意見を言ってみたい⇒約6割
- ・機会があればまた会議に参加したい⇒約8～9割

普段市政に意見を言う機会のない市民



- ・市政への参加のきっかけ
- ・市政への関心の高まり
- ・継続的な参加につながる可能性

SAPPORO 23

～クラウドファンディングの実施～

【豊平区・白石区】これから成人を迎える方に平岸高校生がデザインした記念品を渡したい

カネゴローはらひつくり

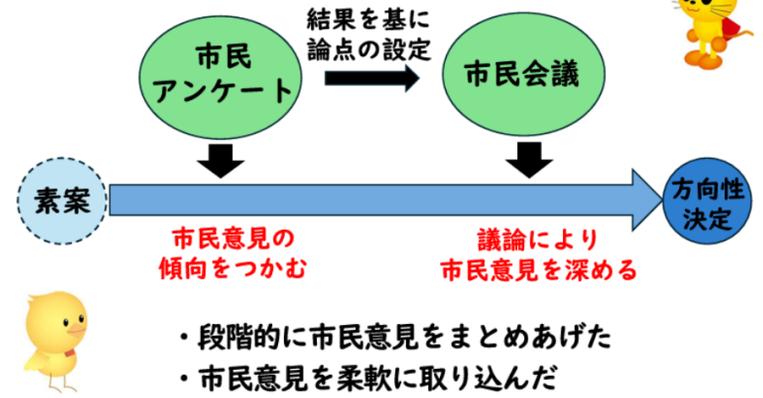


- 市民アンケートや地域へのヒアリングで寄せられた意見から成人式で記念品を配布するためのクラウドファンディングを実施
 ⇒ **市民意見を政策に柔軟に取り込む**

SAPP_RO

～成人式のあり方検討のまとめ～

【市民参加のプロセス】



SAPP_RO

～新たな市民参加の仕組みづくりのまとめ～

現状の市民参加の状況	新たな市民参加の仕組み
<ul style="list-style-type: none"> 市政に届くのは、積極的に市政に意見を言う限られた市民の意見のみで、多様な市民意見を把握できていない 政策の固まった終わりの段階で市民意見を聞いており、柔軟に政策に反映することが難しく、市民参加の影響力が限定的である 	<ul style="list-style-type: none"> 普段市政に意見を言うことのない市民も含め、多くの市民が参加しやすい環境をつくる ⇒ SNSを活用したアンケートや無作為抽出アンケートを組み合わせるなど、より多くの市民が参加できるようにする 政策を考える早い段階から市民の意見を聞き、柔軟に政策に市民意見を取り込み、その過程を市民に共有する

SAPP_RO

■ワークショップの基本的なルール

- 思ったこと、感じたことは率直にお話してください
- 人の話は、遮らず終わりまで聞きましょう
- 批判したり否定したりしないようにしましょう
- お時間に限りがあるので端的にお話ししましょう
- 楽しく参加しましょう

27

■グループワークショップ①

札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう！

ワークショップに入る前に・・・

- 自己紹介
- 今回参加した理由
- 過去に市民参加の経験があるかどうか？

29

■グループワークショップ①

札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう！

- 札幌市の取り組みについてどう感じましたか？
 ご自由にふせんにご記入ください
 - 「早い段階」での市民意見を聞く取り組み
 - 「多様な」市民意見を聞く取り組み
 - 「取り組みに参加した人の意識の変化」について
- このような取り組みについて4段階で評価してください
 (とても良い・良い・良くない・とても良くない)
- このような取り組みが増えた場合、参加意欲は高まりますか？
 3段階でお答えください
 (増える・変わらない・減る)

30

■グループワークショップ①

札幌市で進めている市民参加の取り組みを評価しよう！

- 「早い段階」での市民意見を聞く取り組み
 ⇒ 政策を考え始めたタイミングでの意見を収集
- 「多様な」市民意見を聞く取り組み
 ⇒ 無作為抽出やSNSを活用したアンケートなどを組み合わせた意見収集
- 「取り組みに参加した人の意識の変化」について
 ⇒ 市政への関心の高まり、市民参加のきっかけ作り
- このような取り組みが増えた場合、参加意欲は高まるか
 ⇒ ご自身の立場で、参加したいと思うか

31

■発表

各グループのファシリテーターより発表

- ①どのような意見があったか
- ②取り組みについての4段階評価
- ③参加意欲についての3段階

32

■休憩

14:30 再開
※時間までに自席にお戻りください

■情報提供②

サイレント・マジョリティ
について

サイレント・マジョリティ

- ・積極的に意見を表明することはないが、実際には多数派を占める人々
- ・サイレント・マジョリティを以下のとおり分類するという考え方があります

	特 徴	市政への 関心	行動 意欲
積極参加層	自ら進んで市政に関わり、意見を発信する意欲が高い	高	高
潜在参加層 (負担軽減型)	テーマに関心がある場合や、方法が手軽で負担が少ない場合に参加する可能性がある	中～高	中
潜在参加層 (きっかけ型)	参加依頼や魅力的な条件、周囲の勧めなどのきっかけがあれば参加する可能性がある	低～中	中
沈黙層	全く参加しない	不明	低

- ・分類は固定的なものではなく、テーマや状況によって変わる例)あるテーマには関心が薄くても、別のテーマでは積極的に意見を表明
- ・負担が少なければ参加する人、魅力的な条件があれば参加する人など、市政に参加しない理由や背景は様々である

サイレント・マジョリティ

サイレントマジョリティ

- ・サイレントマジョリティが意見を言わないと、一部の声の大きな人の意見が目立ち、少数の考えがあたかも大多数の市民の考えのように見えてしまうことがあります

・サイレントマジョリティの市民参加を進めることが重要！



「氷山の一角」のように現状、声を上げていないであろう多くの市民(サイレントマジョリティ)の意見を吸い上げるためにはどのような手法が考えられるか？

Youは
サイレント
マジョリ
ティ？

■グループワークショップ②

サイレント・マジョリティが市政に参加するためには？

- あなたはサイレントマジョリティ？
 - ・「除排雪」「子育て」のテーマでは自分はサイレントマジョリティ(どの分類)か？
 - 模造紙にシールをお貼りください
- それぞれのサイレントマジョリティが市政に参加しない(できない)理由は？
 - ※参加した理由でもOKです
- サイレントマジョリティが市民参加をすすめるためには？
 - ・参加が促進されるアプローチ方法を考えましょう

■発表

各グループの
ファシリテーターより発表

■振り返り

各グループ
おひとり1分程度で
本日の感想を共有ください。

- 参加することで意識が変わった
- 市政への参加の方法が分かった

■本日のまとめ

2-2. アンケート票(事後)

「市民ワークショップ」事後アンケート

今後の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力ください。

問1 「市民ワークショップ」に参加して

(1) 参加された感想をお聞かせください。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 大変満足 2. 満足 3. 不満足 4. 大変不満足 5. その他 ()

(2) (1)で「1. 大変満足」「2. 満足」とご回答された方にお伺いします。

その理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 市政に参加できたから 2. 他の人の意見を聞くことができたから 3. 報酬がもらえるから
4. 新しい気づきや発見があったから 5. その他 ()

(3) (1)で「3. 不満足」「4. 大変不満足」とご回答された方にお伺いします。

その理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 有意義な話し合いができなかったから 2. あまり発言することができなかったから
3. 市民参加について理解できなかったから 4. 思ったより大変だったから
5. その他 ()

問2 情報提供について

(1) 札幌市の市民参加の取組や、サイレントマジョリティなどの情報提供について、

あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 分かりやすかった 2. 大変参考になった 3. もう少し詳しく聞きたかった
4. よくわからなかった 5. その他 ()

(2) (1)で「4. よくわからなかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 内容が難しい 2. 説明が不十分 3. 用語が難しい 4. 話が聞き取りにくい
5. 説明の時間が短い 6. その他 ()

問3 話し合いについて

(1) 話し合いの方法について、あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 話しやすい方法だった 2. 最初はなかなか言葉が出にくかった 3. 話しづらかった
4. その他 ()

(2) (1)で「3. 話しづらかった」と回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。

その理由(自由回答)

問4 参加して得たものは何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 市民参加への理解が深まった 2. 市民参加への関心が高まった 3. 他の人の意見が参考になった
4. 自分の考えを整理することができた 5. 意見を言うことの難しさを感じた 6. 特に何もなかった
7. その他 ()

問5 市民が市政への参加やまちづくり活動について考え、意見を出すワークショップを実施することについて、どのように思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 市民の意見が反映されるので良いことだと思う 2. 専門家で実施した方が良いと思う
3. より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う
4. その他 ()

裏面に続きます

